

はじめに「英米日の教育の動きと教職」

専修大学教職課程協議会委員長 文学部 教授 伊部 哲

はじめに

平成12年度の教職課程協議会委員長をおおせつかり、ほぼ英語科教員養成にしか目が向いていなかった私は、いささか重荷に感じています。特に教育のあり方が問われ、教員の採用が極度に減っている今、その感を強くしています。教職員と学生が力を合わせて乗り切る努力をしたいと思います。

13年度は、文学部の改革が実施に移される予定で、今年度はそれに伴う教職課程の申請のし直しが行われました。さらに、新設予定のネットワーク情報学科と経営学科が、平成15年度から実施される高校の新カリキュラムにある「情報」科目にかかわる申請もしました。I T革命の時代と言われ、コンピュータ教育は中学校、小学校にも及ぶはずで、今後かなりの教員需要が見込まれます。仲間が大幅に増えることを期待したいと思います。

私も2年前からパソコンをはじめ、今では毎日1時間くらいかけてインターネットを通して英米の新聞から教育に関する情報を探っています。97年に長期在外研究でイギリスに1年間滞在させていただき、その間にイギリスが日本に劣らず教育改革が進行しており、しかもその改革が日本とはほぼ逆といっている方向に向いていることに大いに興味をひかれたのがきっかけです。今では、専門の英語関係よりも英米の学校教育の動きの方を追っている状態です。その一部を思いつくまま紹介しまし

よう。

イギリスでは、10年ほど前からNational Curriculumという日本の学習指導要領に当たるものが実施され、科目別、学年別に教える内容がかなり細かに指定され、さらに、国家試験が1学年おきくらいに実施され、先生と生徒はそれをカバーするために、大変忙しい思いをするようになりました。それは、21世紀は情報の時代で、国民全体がかなりの基本知識を共有しないと対応できないと考えるからです。アメリカも同様で、クリントン大統領は今までのように各州に教育を任せては置けないと考え、国家としてのカリキュラムの設定を図ったのですが、これは阻まれました。しかし、各州はそれぞれのカリキュラムを設定し、州の教育基準を設けて、州としての到達度試験を頻繁にしています。やはり、先生と生徒は基準到達のためにかなりプレッシャーを感じています。また最近では、高校卒業試験の導入に向けていくつかの州が具体的に動いており、すでに予備試験が行われ、大きな話題になっています。義務教育の高校を卒業できない生徒がかなり出そうな気配です。

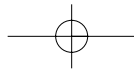
これらのことには、日本、シンガポール、韓国などアジアの学校教育に遅れをとるな、という気持ちも裏にあります。しかし、その日本は「知識の詰め込み」から「ゆとり」「個性」「生きる力」「創造性」などを目指す方向へ転換しつつあります。ど

れが正しいか、という問題ではないのでしょうか。英米は、今まで個性や創造性尊重できて、しかるべき知識を与えないでしまった、これでは21世紀には対応できない、と考え、日本はばらばらな知識を多量に与えてきて、考え、総合し、創りだす人間を育てていない、これでは21世紀に対応できない、と考えています。いずれも正しいのでしょうか。英米ではすでに、「試験のための授業」になっていると問題提起をしている人が出ています。日本も、基礎としてそれなりの量の知識を身につけた上でものを考えないと空回りになる、と警告する人がいます。

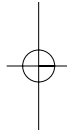
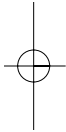
ともかく、結果は、日本とは逆に、英米ともに授業時間が増え、宿題が増え、生徒は勉強に追われて暇がありません。それに、イギリスでは、大学進学者が増え、受験競争の激しさはかつての日本とそれほど変わらないかもかもしれません。アメリカは、日本とは逆に、生徒数が増え、大学進学競争も激しさを増しています。英米共通なのは、うらやましいことですが、かなりの教員不足で、奨学金や減税などで教員希望者の気を引こうとしています。ただし、教員の質も大きく問われています。

晴れて教員になったとしても、日常の教育活動に追われながらも、常に広く目を開いて、大きく世の中の動きを知り、判断していく必要があります。

Passo a Passo

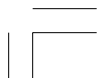
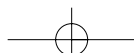


Passo a Passo



目 次

1	イタリアの統合教育研究ノート	4
	——専修大学経営学部教授 嶺井 正也	
2	教職課程	9
3	司書・司書教諭課程	27
4	学芸員課程	33
5	データ編	39



イタリアの統合教育研究ノート

経営学部 教授 嶺井 正也

【はじめに】

「障害」のある子どもたちと「障害」がないとされる子どもたちとが、それぞれ別の場ではなく一緒の場で過ごし、学べるようにする、いわゆる「統合教育」。当時、その先進国スウェーデンよりイタリアの方が法制度の面では進んでいると感じたことが、私のイタリア教育研究の出発点となった。1984年秋、10月28日から11月7日にかけて、数名の研究者とフランス、イタリア、イギリスの教育事情を視察に行った時のことであった。

イタリア教育への関心はこの統合教育ばかりではなかった。今日この日本において話題となっている「学校評議員制」に関わってくる「学校協議会」制度への興味関心もあった。学校教育に関わる意思決定を、それぞれの段階に設置された協議機関での論議を通じて行っていくというシステムの中心的存在が、各学校ごとにおかれる「学校協議会」であり、1974年の大統領令「幼稚園、初等学校、中等学校及び芸術学校における協議機関の設置と再組織」で規定され、今日に至っているものである。イタリア教育研究の先達の一人、前之園幸一郎・青山女子短期大学教授によると「教育評議会（彼は協議会ではなく、評議会と訳している～筆者注）の創設による『教育行政への民衆参加』は、中央集権的教育行政組織を民衆の手に取り戻し、その民主化を実現するための突破口とな

るものである。これは、教師、父母、全国的組織の労働組合の代表、地域経済界の代表、守衛を含む学校職員代表、有識者、さらには後期中等学校においては生徒代表をも含めて、具体的な教育行政上の問題を合議により決定し、民衆の意思を行政に反映させようとする」目的を持っている。

この二つの問題意識をもって、私はイタリアに是非研究しに行きたい、と思うようになり、40歳を過ぎてイタリア語の勉強を始めたのである。運良く専修大学の在外研究に行くことができようになり、1992年4月から翌年の3月までミラノ大学に籍をおき、教育法制の資料収集・分析と教育実践、学校現場の観察を行った。その前後から、ミラノ大学政経学部で日本語を教えていらっしゃる西川一郎先生（小学館『和伊辞典』の編纂者）その妻のマリア・チェステ先生（高校の校長先生）に大変お世話になった。残念ながら、西川先生は他界されたのであるが、マリア先生はご健在で今でも時折イタリアの教育事情を知らせていただいている。

この1年間のミラノでの在外研究のおかげで、私は以下のような研究成果を、まったく不十分ながらも出すことができたのである。

【これまでの研究】

イタリアの統合教育は、制度的には統合教育の原則を打ち

出した1971年3月30日の「障害者援助法」（法律第118号）から始まり、保育所から大学までの統合教育の権利を規定した1992年2月5日の「ハンディキャップ者の援助、社会的統合及び諸権利に関する基本法」（法律第114号）において一応の確立をみたと言ってよい。その過程について、極めて概括的な整理を試みたのが「イタリア・統合教育のあゆみーハンディキャップ者基本法制定まで」と題する論文である。これは、最初は『明日をひらく』（1995年11月号、東日本部落解放研究所）に収めたものであるが、後に、若干の手を加えて拙著『障害児と公教育』（明石書店、1997年2月20日）に再録した。このハンディキャップ者基本法が制定・公布された1992年は、私がイタリアでの在外研究を開始した年である。この法律を手にしたときの興奮は今でも記憶に新しい。実際に日本語に全訳したのは帰国後であり、『季刊 福祉労働』第66号（現代書館、1995年）に掲載した。

1992年以降今日まで、法制度面での新たな動きはみられない。しかしながら、ユネスコにおけるインクルージョン、インクルーシヴ教育の流れ（その出発点になったのが1994年スペインのサラマンカで採択された『サラマンカ宣言』である）を受けて、OECDにおいてもインクルージョン、インクルーシヴ教育への動きが主流になりつつある状況で公刊された『インクルーシブ

の実際（Inclusive education at work）』にイタリアの事例が紹介され、かつ、この9月から従来型の高校でいえば2年生まで義務教育化されることになったことを踏まえて、「インクルージョンの大きなうねり」という原稿で、イタリアの統合教育のその後について整理した（『福祉労働』2000年3月）。

【これからの研究課題】

こうした論文で、イタリアの統合教育の歴史的流れは一応概観できたのであるが、言うまでもなく残された課題は多い。

第一に、このテーマについて研究会や集会などでよく質問されながらも答えられなかったのが、統合教育への動きを創り出した当事者の障害者団体の動きについてである。どんな団体が、どんな運動を、どんな主張を掲げて展開したのか、それはどの程度の影響力を持っていたのかという質問である。まずは法制度面での整理ということを第一の課題に考えていたため、そうした運動史的な資料を全く集めていなかった。したがって、答えられなかったのは無理もなかった。しかしながら、極めて重要な問いかけであった。どういう力学のもとで統合教育への動きが制度化へと向かっていったのか、そしてまた、その力学の中でも当事者はどんな力を担っていたか明らかにすることは非常に重要なことである。障害施策の歴史の中で、当初は当事者

の意思などまったく無視されてきたという背景があったし、また、この日本における統合教育を求める動きは、障害者といわれる人々が自らの被差別体験をもとに作りだしてきたという事実があるからである。あわせて保護者の動きも明らかにする必要がある。

ことの重要性は認識しながらも、いまだに明らかにしえず、課題のまま私の意識の中でくすぶっている。

第二は州レベルの法制度の展開過程の分析である。イタリアでは1987年の憲法裁判所の判決以降、高校段階での統合教育が進んでいくことになる。この裁判の過程で明らかになったのは、いくつかの州では、高校段階での統合教育を進める法制度が国にさきがけてつくられているという事実であった。しかしながら、国レベルの動きは法律、大統領令、通達などによってある程度明らかにすることはできるが、州レベルの動きに関する資料はなかなか入手しづらい。

とはいえ、まったく不可能というわけではない。各州におかれているIRASAE（州教育研究所）の資料が手に入れば、可能なはずである。

第三は、歴史というよりはこれからの動きを明らかにするという課題である。前述したように、イタリアはこの秋から念願の義務教育延長に踏み出した。新しい制度では、かつての高校2年生段階までが義務化される（図参照）。となると、「障害」を

持つ生徒が後期中等教育で学ぶ数は飛躍的に増えるはずである。入学試験のないイタリアでの進路先の決定、受け入れ先の学校での支援体制その他が、これまでの中学校までの統合教育体制並になることになるものと思われる。さらに、義務教育修了後の進路はどうなるか、大学での統合教育もいっそう進むのかなど、興味は尽きない。

【新しい文献から】

こんなに課題があるとなれば、イタリアに行って実際に資料集めと調査をしてこなくてはならない。来春にはイタリアに飛び、おいしいワインと料理に舌づつみをうちながら頑張ってみようかと考えている。その前に、最近、入手した文献『レパートリー2000ー新学校教育法事典』から簡単なメモをとっておきたい。

1）成績評価

これまでも障害を持つ生徒の成績評価に関してはある程度分かっていたが、この文献でよりいっそう明確になった。その部分を翻訳しておきたい。

…………

身体あるいは感覚にハンディキャップを持つ生徒に関しては、個別教育計画（PEI）を絶えず念頭におきつつも、受験資格の確認と試験とは、内容的に「通常の生徒」の評価とは異なることはない。方法の面では、障害の状況に応じて以下のような可能性が認められている。

ー（学級協議会が「試験実施方法についての具体的な指標」をほぼ満たしていると予め認める生徒については）「類似試験」を課す。

ー（「試験日程に定められている最大日数では不可能な」）記述試験や作図試験に関しては「時間延長」を認める。

ー「自力受験とコミュニケーションのためにアシスタントの出席」を承認する。

知的ハンディキャップを持つ生徒については、評価手続きはもっと明確になっている。

1．個別計画が（簡略の、及び／ないし、多目的の個別教育計画のいずれにも）「政府の定めた計画に到達できない教育目標や授業目標を」あらかじめ定めている生徒の場合には、その生徒はPEIだけに関わる点数付与で、したがって、法的な評価抜きで、次の学年への進級が認められる。この場合、次のような付記が成績表につけられなければならない。「この点数はPEIに関わるものであって、政府のプログラムには関係はないし、かつまた1995年4月19日の公教育省通達第80号の第13条によって講じられたものである。」

2．ハンディキャップ生徒の家族は「他とは異なる」評価について予め告知されなければならない。もしも正式の同意がない場合には、その生徒は通常の基準に基づいて評価されることになる。

1997年の布告第266号は1995年の省令第80号を修正し

補足している。

職業資格や美術職人資格に関する試験に関しては、個別教育計画の内容に関する試験という形で「異なる評価を受けた」ハンディキャップ生徒も受けることが認められている。その場合には、職業教育の所定の課程への通学を証明する「教育クレジット」として利用可能な、取得資格証明書が交付される。同じ学年に3回在籍したハンディキャップ生徒に関しては、個別教育計画で次の学年の授業及び活動、並びに特定の「教育クレジット」の承認に道が開かれている職業教育や労働教育が組み込まれた進路への参加を認めることが可能になっている。

…………

イタリアではもともと、ハンディキャップの認定からはじまり、個別教育計画の策定まで保護者の同意を必要としている。その上、個別教育計画が策定される生徒の評価に関しても、保護者の同意がない限り、一般の基準に基づいて評価されるという手続きに関しては今回初めて確認できたことであった。手続き面で保護者の意思が最大限に保障されているのである。

2）一学校級当たりの生徒数

イタリアにおいては統合教育が本格化した1970年代半ば以降、一学級当たりの生徒数は25人で、ハンディキャップのある生徒が入ってきた場合には20人になる。そして、ハンディキャップ生徒4人に1人の割合で支

援教員が配置される、というのが通り相場であった。しかし、この文献では以下のような内容が示されており、驚きを禁じ得なかった。

…………

教員配置に関して、これまでは小、中学校では障害生徒4人に1名の割合で教員を配置し、障害生徒を受け入れた学級については生徒数は最大限で20名にする（1977年の法律第517号、1994年の法律第297号第72条、）規定されていた専門教員の採用方法は、1997年法律第449号第40条第3項によって変更された。同法は「県の職員の場合には、県内の国立の教育機関に通学する生徒数が138人につき支援教員1名」を割り当てるようにするものである。しかし、特に障害が重い場合には、支援教員の採用に関して定められた期間の協約約定は当該学校に委ねられている。

1998年7月24日の公教育省令第331号第10条に替わって定められた1999年6月6日の公教育省令第141号は、下院が1998年12月20日に承認した決断の実行に際して、すべての種類と段階の学校で、ハンディキャップ生徒のいる学級の生徒数を最大で20人（そして、いずれにしても25人を超えない。県の職員採用の有無、各学校における組織的状況や専門的リソースばかりでなくハンディキャップの重さや生徒自身の状況の事前評価に関わって）に戻すものである。生徒数を20人に減らすことの必要

性は生徒の教育要求と関わって明確にされ、その根拠がしめされる必要があるし、そしてまた、統合教育と結びついているプロジェクトは、学級担任教員、支援教員、その他の同じ学校の職員が認めた方策や方法をはっきりと定義しておかなければならない。

…………

どうやら、支援教員はこれまでのようにハンディキャップ生徒にのみ関わる教員としてではなく、当該学校のすべての子どもの支援に関わる教員としての役割に替わりつつあること、それにともなって、配置方法も変えられたし、ハンディキャップ生徒がいた場合には一学級当たりの生徒数を20人に減らすとい

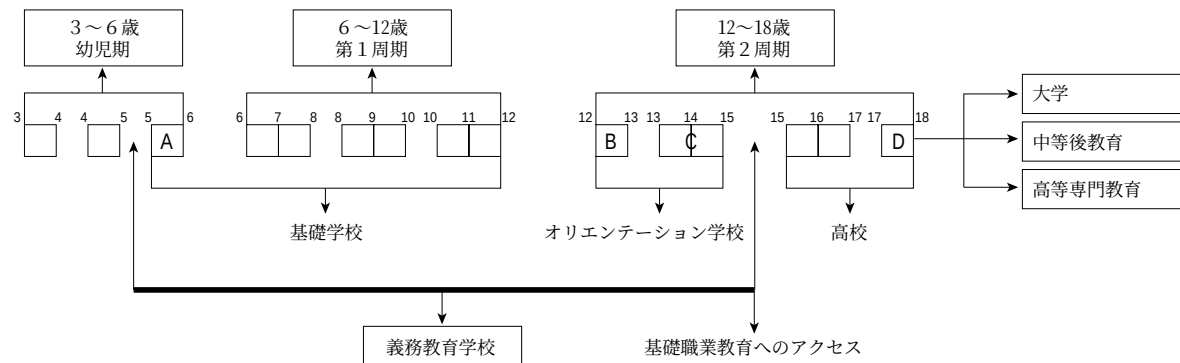
うことも単純な計算ではなく、この間の経過についてはまったくフォローしていなかったので、まだその内実を明確につかむことはできていないが、これが事実であるとする、統合教育のあり方について基本的な考え方が転換したということも考えられる。これは、すべての子どもたちの個別のニーズに対応する中で、ハンディキャップを持つ子どものニーズにも対処しようという、いわゆるインクルーシヴ教育、インクルージョンへの発展がイタリアで見られつつあるという、極めて重大な意味の動きかもしれない。

そうであれば、今後の中心的な検討課題になりそうである。

【おわりに】

もう少し内容の明確なメモにしたかったが、残念ながら果たせなかった。このところ英語の文献を翻訳する仕事が立て続けにあって、すっかりイタリア語にはご無沙汰であったせいかも知れない。時間をかけて着実な研究をしたいと思いつつもそれが叶わないのは、さまざまな仕事に手を出す私の悪い癖が原因の一つであろうが、イタリア教育の専門家が非常に少ないという研究蓄積上の問題もある。誰か一緒に研究してくれる人が現れることを願って終わりにしたい。

＜資料＞イタリアの新学校体系図



A：準備年
B：教科選択を徐々に広げながら進路を一般的に考える期間。
C：進路目標を定めるための2年間。1期4ヶ月間で、それぞれに独立した4期に区分されており、古典、科学、芸術、技術、職業などの学科モジュールの中から選択する。
D：大学進学準備年で、学部選択を行う。

教 職 課 程

Index

1	国語の授業の広さと深さ	10
	—— 専修大学文学部教授 高橋 貢	
2	卒業生から	12
3	教員採用試験体験記	16
4	教育実習生から	20

国語授業の広さと深さ

文学部 教授 高橋 貢

今年（平成12年）6月5日（月）の朝日新聞夕刊に「国語の授業」と題して、読者の体験と意見が載っていました。130通の投書の中から7人分の投書の抜粋なので、全員の意見の集約、反映ではありませんし、採用した側の好みもありかもしれませんが、参考になる意見がありました。その幾つかを紹介します。

一は、長崎市で小学校教員をしている39歳の女性の方の意見です。――高校三年生の時の、森鷗外の『舞姫』の授業は忘れられません。格調高い明治の文豪の作品に触れた時、新しい世界が開けた思いがしました。主人公、豊太郎の生き方を通して、人生をどう生きるかという問いを示してくれた授業。こんな楽しい、人生に影響を与える授業をしたいと教師になりました。

二は、新潟市の51歳の会社員（男）の意見で、国語の授業の中に、人生の意味や生き方について話し合う機会を取り入れてほしい、とありました。

三は、春日井市に住む51歳の女の方の意見で、高校の現代国語の授業で指示代名詞に異常にこだわる先生がいて、文学を味わうという面は全くなかった。内容を楽しめるように、感動を味わえるように教えてほしいと思った、と述べています。

四は、児童文学者、古田足日氏の意見で、教材にとり上げた作品の内容を読み取ることは必要だが、こだわると、授業がつまらなくなってしまう。作品は作者の意図を超えたところで、読者を感動させることがある。生徒の思い込みを壊したり、生徒の心を揺さぶる授業も大事だ、とありました。

私は以前、国文学科以外の学部、学科の学生と話す機会がありましたが、その時学生に、なぜその学部、学科を選んだのかを聞きますと、学生は、高等学校の時に受けた国語の授業が理屈っぽくてつまらなかったの、今の学部、学科を選びました、と話しました。

私はその時、中学、高校時の生徒の心の琴線に触れ、感動を呼び起こす授業をすることが重要であり、その授業――もちろん国語だけとは限りません――が生徒一人一人の将来の生き方にも影響を与えることのあることに気がつきました。

私的なことになりますが、私は高校卒業後、一年間予備校で入試の勉強をした後、大学の国文学科に進学しました。その進学理由には幾つかありますが、その一つに中学、高校時に受けた国語の授業での魅力があります。M先生が教科書から離れて歌舞伎観劇の話をされた時は、一時間、私語する生徒はだれもいませんでした。授業開始の時に教室がざわついていても、静かな口調で話されると、自然に教室は落ちつきました。

授業に教科書は必要ですが、授業の魅力は、教科書に拠りつつも、生徒の感動を引き起こす先生の個性、実力、経験、指導力等にあります。指導法の応用だけではよい授業はできません。そのような意味で、魅力のある国語の授業は、指導者のそれまでの全人的な諸体験を総合、集約し、一時間の授業に投影するところから出て来るのではないかと思います。

他の一人のT先生の授業は――語句の解釈や文法の説明については、今から考えると必ずしも正しいとはいえないところがありましたが――情熱のすべてを傾けて教

えていただいたという点で生徒の心を引きつけました。

高校卒業後、一年間の浪人時に予備校に通いました。その時に受けた国語、英語の授業は高校までの授業にない魅力がありました。一語の持つ意味の奥深さ、多様さ、広範囲の応用力のあることを知りました。

国語の授業には様々な内容があります。文学作品をとり上げることも大切ですが、それだけにとどまるわけにはゆきません。春日井市の女の方の意見にあったような、ある場合には指示代名詞にこだわることも必要です。主題、構想、文脈に沿った語句の意味を考えながら読みを進めることも大切です。一方、今の生徒が社会に出た時、文章の書き方が下手なので、文章力をつけさせてほしいとの要望があります。このほか話しことばでは、聞き方や話し方、会議での司会の仕方、研究会での発表、討論の仕方等、様々な内容が含まれます。またこれらの授業を通して、二千字に及ぶ常用漢字を覚えさせ、社会人としての言葉や敬語の使い方を身につけさせなければいけません。

これらの中で、文章力をつけさせるにはどのようにしたならばよいでしょうか。現在の指導要領や国語科教育のテキストを見ますと、まず、材料の選び方、構成の仕方、叙述の方法が書いてあります。もちろんこのような技術的方法や段階も必要ですが、それとともに生徒が作文の材料を見つけ、選ぶには、一人一人が問題意識を持つことが大切です。そのためには問題点を見つけ出す眼、考え方がしっかりしていなければいけません。本を読み、人の話を聞き、友人と

話をし、あるいは思索することによって眼をきたえ、考え方や知を養っていかなくてははいけません。問題点を見つける眼を持てば、作文の材料を見つけることが容易になります。このことは大学生がレポートの材料を見つける場合にも当てはまります。

人には皆、好みや片寄り、傾向があります。個人的な好みもありますし、時代やグループ、組織等の影響があって、特定の方向に片寄り勝ちになりますが、多方面に視野を広げ、貪欲に様々な知識を吸収するとよいと思います。それが考え方を深めることになり、文章力をつけるだけでなく、人生を豊かにすることにつながります。

国語の教科書によくとり上げられる古典の教材として、『徒然草』五十二段「仁和寺にある法師」があります。一人の仁和寺の老僧が一人で石清水八幡宮に参詣した時の失敗話です。案内者もつけず、一人で歩いて、男山の麓までたどり着いたが、八幡宮は山上に鎮座

してあることに気がつかず、麓の寺社だけを拝んで戻った話です。この段について一般には、仁和寺僧の一人よがりの失敗として、滑稽、おかしみとして扱う傾向があるようです。ところが最近の研究を参考にして読み直しますと、単純に滑稽として扱えないことがわかります。この一段のかぎとある一文は「かちより詣でけり」にあります。当時、仁和寺から嵐山の近くに出て、舟で桂川を下り、男山の麓まで行く方法がありました。ところが老僧はわざわざ歩いて参詣しました。中古・中世の人々が信仰心で寺社に詣でる時は歩いて行くことになっていました。老僧が舟便によらないで歩いて行ったわけがこのことから理解できます。この段の後に「少しのことに、先達はあらまほしきことなり」との批評があります。滑稽との批評はありません。私はこの老僧に対して、気の毒と同時に、御苦労様と言って、頭を下げたいと思います。――この一段だけとり上げて

も、これまでは考えられていなかったことが案外あります。色々な点に気を配り、視野を広げて行かないといけないことがわかります。

国語教育は英語、社会、数学等、他教科と関わりあいながらも、もっとも基礎的な教育です。ことばを正しく理解しなければ、他の教科の内容も正しくは受けとることができないからです。

それと同時に、国語の授業が生徒の進路にも影響を与え、卒業後数十年後にも感動を残す場合があります。

最終的には、様々な内容を集約して、生徒一人一人に感銘を残せれば、国語の授業としては成功したといえると思います。

冒頭に掲げた「朝日新聞」の記事を読むことによっても、国語の授業の幅の広さ、奥の深さを感じることができますが、私も国語科教員の一人として、責任の重さを感じる次第です。



卒業生から（社会）

新潟県立村松高等学校教諭 阿部 利幸（平成8年 文学部人文学科卒業）

みなさん、今日は。私は平成8年に大学を卒業して高等学校の教員になって5年目を迎える者です。これから少し生意気かもしれませんが、本当の意味で教員になりたい人の参考になればと思い、現在の学校（高等学校）の現状について書いてみます。

まず始めにお聞きしますが、みなさんはなぜ教員になりたいのですか？子供の成長を身近に感じてみたい、クラブ指導をしたい、学問の面白さを教えてみたい、夏休みや冬休みがあって仕事が楽そう、公務員だから安定している・・・等様々だと思います。早速で申し訳ありませんが、夏休みや冬休みがあって仕事が楽そうとか公務員だから安定しているからという理由で教員になりたい人は辞めた方が良くと思います。これは間違いありません。絶対に後悔します。

私の場合は1番にクラブ指導をしたいという思いがあり、2番目に自分の得意分野である地理の面白さを生徒に伝えてみたいという思いがありました。しかし、今はその両方とも思うようにいかず悩み続ける毎日です。それらの自分が描いていた理想と現実のギャップについて少し話をしたいと思います。

1. クラブ指導について

私はこれがやりたくて教員になったといっても過言ではありません。その理由は私が高校のときに入っていたバレーボール部の顧問の先生の指導に強く影響を受けたからです。その指導は“クラブ活動を通じて人間形成をする”ということです。私が住んでいた地域は中学校にはバレーボール部がなく全員が高校に入ってからオーバ

ーパスから始めるというものでしたが、目標は県ベスト4という高いものでした。顧問の先生はいつも「努力はウソをつかない」が口癖で私たちもその目標達成のため毎日努力しました。結果は県ベスト4にあと一歩でしたが、その練習の中から“あきらめずに努力することの大切さ”、“協調性”、“礼儀作法”などを学びました。それが私の浪人生活や教員採用試験突破の原動力になったのです。その「努力はウソをつかない」を私も指導目標として現在女子バレーボール部の顧問をしています。なかなか今の生徒にはその指導が受け入れられずクラブ指導もうまくいかない毎日に悩む日々です。

2. 授業について

みなさんはたぶんきっと今、私が大学4年生だったころに描いていたのと同じ授業風景（楽しい？）を考えているでしょうが、それはきつとうち砕かれます。なぜなら、みなさんが卒業（教育実習）した高校はきっと進学校であり、生徒が授業に参加するのが普通だからです。しかし、よく考えてください。そのような進学校はどの位あ

るでしょうか？ほとんどないはずです。私の勤務している学校はこの地域の俗に言われる底辺校です。正直言って中学校から勉強をしたことがない生徒ばかりで学習意欲はほとんどありません。テスト前さえもほとんど勉強しません。50分の授業時間すら集中できません。そのような生徒が相手だとみなさんが教わってきた授業方式ではほとんど通用しません。そのため、いかに生徒に興味・関心を持たせられるか、いかに簡単に説明できるかを考える日々です。授業のための教材研究はかなりの覚悟が必要です。

3. 最後に

今まで厳しい現実ばかりを書きましたが、これは多かれ少なかれ本当です。これらの現状を真に受け止め、本当に生徒の将来を考えて根気よく指導していく気持ちがある人にだけ教員採用試験を受けてもらいたいと思います。最後に本気で教員になりたい人に私の心にある次の言葉を贈ります。「教員は一生片思い・・・」だと。

みなさんのご検討をお祈りいたします。



後列、右側が阿部先生

卒業生から（国語）「一私立高校教員の生活」

茨城県私立水戸女子高等学校教諭 守屋 友子（平成8年 文学部国文学科卒業）

就職を意識し始めた大学三年生の頃、教職を志してはいましたが、一般企業に就職しようかという迷いもありました。それは、自分に教師としての適性があるかどうか、今一つ自信が持てなかったからです。そのような時、同じく教師を目指していた友人がこう言いました。「大事なのは適性よりも熱意だよ。型通りの教師じゃなく、自分らしさを生かした先生になればいいんじゃない？」

この言葉がきっかけで、その後、教職一筋で頑張ってきたことができました。念願叶って今、教壇に立って五年目になります。私が勤務している学校は、茨城県にある私立学校です。公立の学校や他の私立学校とは多少異なるとは思いますが、このような学校もあるのか、といった観点から何らかの参考としていただけたらと思います。

まず、私が勤める水戸女子高等学校は、先程も述べたように、いわゆる「私学」です。私学の特性として挙げられるのは、創立者の熱い教育理念のもとに設立された学校である点だと思います。本校では「社会に貢献できる女性の育成」という教育目標を掲げ、県内でも少なくなってきた女子校として、特色ある教育活動を展開しています。勤め始めてしばらくは、自分が受けてきた公立学校との教育の方針や内容の違いに戸惑いを覚えました。しかし、公立学校にしる私立学校にしる、一人一人の生徒により良い人生を送ってもらうための舞台だということに変わりはありません。そう思うことによって気持ちが少し楽になり、自然とその教育方針に沿った指導が出来るようになりました。ただ、一概には言えませんが、やはり私学は特色ある教育活動を展開して

いる所が多いと思うので、もしその採用試験を受けようと考えているのならば、その学校の教育理念をよく理解しておいたほうがよいと思います。

仕事をしている中で日々感じることは、生徒達は非常に鋭い目や感覚を持っているということです。教師が生徒の様子をよく観察しているのと同様に、生徒も教師の言動に敏感に反応します。思春期の子供達を相手にする職業ゆえ、教師側の言動にも、ある程度の緊張感が求められます。そうかと言って、いつもピリピリしては、生徒との距離感も縮まらないので、そのバランスの取り方が難しいところなのですが……。私も担任を持って四年目になりますが、このあたりはまだ勉強中です。

また、ホームルームとは別に、クラブ顧問としても、日々貴重な経験をさせてもらっています。本校には、全国的にも珍しい「雅楽」のクラブがあります。自国の文化にあまり興味を示さない若者が増えていると言われていた中、日本の伝統芸能を身に付けようと積極的に活動する生徒と共に、私も多くのことを学ばせてもらえるのは、とても有難いことだと思っています。

さて、次に採用試験に向けて少しお話ししたいと思います。学力試験に関しては、公立・私立を問わず、一般教養及び専門科目の試験があると思うので、早めに対策を立てておいたほうがよいと思います。但し、私立学校は採用がある時に、それぞれの学校で独自に



試験を実施する、という形が主流だと思うので、出題傾向などはつかみにくいと思います。普段から幅広い分野の学習を心掛けておくとう良いと思います。また、在学中に何か一つのことに熱中したり、反対に多くのことにチャレンジするなどして、自分に磨きをかけおくことも大事だと思います。「自分らしさ」のある魅力的な人柄は、教師に求められる大きな要素となるので、何事にも好奇心を持って挑戦してみてください。あとは自分を信じて、熱意を持ってひたすら教師の道に進んで行くことが、合格へのカギになると思います。

最後になりましたが、教師の仕事は、真剣に関わろうとすればするほど、自分自身の痛みを伴う苦しさがあります。しかし、これほど創造的で意義深い仕事も、めったにあるものではないと思います。皆さんの夢が叶えられるよう、私も心から願っています。どうか頑張ってください。

卒業生から（英語）「孤独な教科指導」

大田区立東調布中学校教諭 溪内 明（昭和62年 文学部英米文学科卒業）

1. 多岐に渡る教員の仕事

ちょっと現実的なお話をします。教師を目指すみなさんは、教師の仕事にどんなイメージをお持ちでしょうか。教科指導さえあればよいと思っている人はいないでしょう。部活動の顧問をやるくらいは知っているかもしれませんが。

教師の仕事は多岐に渡ります。教科指導の他に、学級経営や学年の仕事。教務、生活指導、進路指導、環境保健等の校務分掌。学校行事、部活動、生徒会活動等の特別活動。PTAや地域との関わり。校外でも連合行事、地区の教科研究会、部活動の顧問会議、高校との連絡会等の仕事もあります。これらの仕事は容赦なく同時に進行します。そしてそれを運営するための会議が設定され、同僚や他校の教員、保護者等と関わり合いながら、協力・分担して仕事を進めるのが普通です。先輩教員にならって、早く覚えなければいけない仕事も多くあります。もちろん子供のこと。突発的な問題は多々あります。

2. 孤独な教科指導は後回し？

その中で教科指導は多くの場合、授業準備や教材研究等は基本的に孤独な仕事です。それ故、どうしても他の人との関わりのある仕事が優先になります。遅れたりすれば迷惑がかかります。次第に教材作り、宿題のチェック、テストの採点等、教科指導の関わる部分は後回しになります。学校で差はあるものの、教員は大体このような現実だと思います。

3. 教科指導が孤独に陥らないために

このような状況の中、次第に教科指導が疎かになりがちです。部活動や生徒指導が優れていても、教科指導の勉強が不十分な人もいます。（逆に教科指導は拔群でも、他の仕事に協力的ではない人もいますが。）様々な仕事の中で何が最優先かは一概に言えません。どれも大切です。しかし、どんな状況でも授業をしっかりと行うことは教師の義務です。教科指導は孤独ですが、孤独なままだと「やっていることが良いのか悪いのか」わからなくなります。最も危ないのは、うまくいっていると錯覚したまま、確かめることなく月日が流れることです。客観的に見てよい授業にするには、教科指導が孤独なままではいけないと思います。私は、次のようなことを心がけています。

- ①同僚と授業を見合う（数分でもよい）。
- ②自分の授業をビデオに撮る。
- ③「達人」の授業をビデオで見たり、直に見に行ったりする。
- ④英語教育関係のセミナー、研究会に出席する。
- ⑤英語教育関係の雑誌、書籍を読んでネタを仕入れる。
- ⑥自主教材や試験問題を他の教員と交換する。

これらを毎日全てできるわけではありません。大切なことは自分の仕事を客観的に見る（見てもらう）環境を整えておくことです。

4. 英語教師を目指すみなさんへ

最後に、英語の教師としてのお話です。私は次のようなことを念頭に授業を行っています。①授業は基本的に英語で進める。②音声⇒文字の順序で指導する。③教科書の題材を大切にする。④新出語句、新出文型は、シチュエーションの中で提示する。⑤教科書の音読を重視する。⑥1時間で延べ100名の生徒に発言させる。

このような欄には、生徒との楽しい思い出、教師としての喜びを書くのがよいかとも思いますが、今回はあえて現実的なお話をさせていただきました。理想に燃え、夢をもった専修大学の仲間が、教育の世界に入って来てくださることを心から願っています。



卒業生から（商業）

横浜市立横浜商業高等学校教諭 小市 聡
（昭和58年 商学部商業学科卒業）

会社価値人間から自己価値人間へ

今の日本社会では就職してから定年するまで約40年間働くことになります。しかし今回の不況から40年間安泰な企業はほとんどないことがわかりました。先の見えない社会に出発していく皆さんに言うことはこれからは会社に価値を求めるのではなく自分自身に価値を求めていく自己価値人間になることが必要だということです。

資格は必要

自己価値人間には必要な要素が2つあります。1つは自己の持つ実力です。そしてもう1つは実力の証明です。証明の方法は様々ですが資格はこれに該当します。仕事によっては実力があっても資格がないとできない職業もあります。資格はとても大切な証明です。

教職課程は難しい

さて資格は様々で有効期限付きの資格から一生ものの資格、等級のあるもの、合格率が高いもの低いものなど多種多様です。

私は専修大学で教職課程を学びました。教職の資格は一生ものです。専修大学の講義を普通に受講していれば取得できます。教育実習もありますがそれで単位を落とす人はまずいません。教員はこの資格がないと本当に実力があってもなれません。現在私が教員として楽しく仕事をできるのも教職の資格取得しているからです。

チャンスはいつくるかわからない

とはいっても現在教員の採用がほとんどありません。取得しても無駄にも見えます。しかし私は30歳で教員になりました。最近学校は校外の専門家や地域の人たちを講師として招いたり校外で学習するなど多様化しています。終身雇用が崩れ民間人が校長になる時代にいつどこでチャンスが巡ってくるかわかりません。

会社がなくても資格は自分の財産として残ります。自分のために取れる時に資格を取得することを皆さんに薦めます。



左が茂木先生

東京都立赤羽商業高等学校教諭 茂木 里美
（平成11年 商学部商業学科卒業）

教員

員になって、早一年半が経ちました。まだまだ経験不足の身ではありますが、少しでもこれから教員を志すみなさんの参考になればと思います。

私は、平成11年度の東京都教員採用試験に合格しました。あまり勉強していなかったのにいったん企業に就職をしてから、受験し直そうと考えていたので大変驚きました。それから赤羽商業高校への採用が決まり、現在に至ります。

今は、一年生のクラス担任をしています。いろいろなタイプの生徒がいて、毎日試行錯誤の連続です。時には、生徒や保護者の方と衝突することもあり、頭をかかえることもあります。精神的に切羽詰まることもたびたびあります。そのような時に、生徒の笑顔を見るとどんなことでもがんばれるのは、この職業に就いた何よりの特権だと思います。生徒も人間で、私も人間です。生徒が成長するように、私も成長しなければならないと実感しています。

私が教員になって痛感していることは、マニュアルが全くないということです。すべての状況に応じて対応するしかないのです。失敗もよくします。しかし失敗を恐れていては何もできません。失敗を自分の糧とする姿勢が教員に求められる姿勢だと思います。生徒を思う気持ちや教授技術は、後でいくらでも身に付きます。

最後に、教員を志願されているみなさんへ。この職業は、体力も精神力も向上心も必要とします。責任も重大で、大変な職業です。しかし、どの職業よりもやりがいがあります。生徒の笑顔で何事もがんばれる自信がある人、未来の教育現場に一石投じてみたい人。教員採用試験はとても狭き門です。しかし、今充実した大学生活を送り、教員への情熱を捨てなければきっと自らの道は拓けてきます。今を大切に過ごして下さい。健闘を祈ります。



教員採用試験体験記（社会）

八王子市立別所中学校教諭 中山 哲雄（平成4年 法学部法律学科卒業）

早いもので、教員になってから4回目の3年担任をしています。中学3年という、進路の選択という大きな問題に直面する大事な時期です。私は、進路の話をするときに、「進路とは、自分の夢や将来の目標を叶えるための通過点である。つまり、ゴールではなく、スタートである。」と話しています。偏差値を廃止し、「行ける学校から行きたい学校へ」という進路指導に変わって、数年。将来の生き方として自分の進路について考えるように指導しています。

そして、これは教員採用試験にもあてはまるのではないのでしょうか。教員採用試験が超難関といわれる現在、採用されることに精一杯で、どういう教師になりたいのか、教師になったら何をしたいのかなんて考えている余裕がないのは仕方ないことです。しかし、最近の採用試験では、面接が重視されます。また、1次試験の専門教養でも指導方法について問う問題が増えています。つまり、単純に知識の豊富な人物ではなく、しっかりビジョンを持った人間が採用されているのです。したがって、「自分はこういう教師になりたい。」とか「自分だったらこう指導したい。」という自分なりの理想の教師像を描いておくことが大事です。

しかし、実際の現場を知らずに、理想を並べてみても、それは、「机上の空論」に過ぎません。現場の状況や生徒の実態を十分理解した上で議論をすることが大切です。実際、私も2次の面接試験のときに、ある面接官から「君のいうことは理想だが、現実はどうはいかないんだ。」と言われました。その点、講師経験の豊富な人は有利だと言われます。私の場合は、現役だったので当然講師経験は全くあ

りませんでした。そこで、実習校とのつながりを大切にしました。幸い、自分の場合は母校だったので、実習が終わってから何度も足を運びました。夏休みのボール指導のアルバイトをしたり、部活動（野球部）に顔を出したり。研究授業を見学させていただいた時もありました。その中で多くの生徒とふれあい、「生の声」を聞きました。また、2次試験の前には、色々な方からアドバイスをいただきました。自分にとっては、教育実習が終わってからの数ヶ月が、本当の意味での実習だったような気がします。

ところで、実習校の先生に教えていただいた言葉で、今でも忘れられない言葉があります。それは、「四者吾入（ししゃごにゅう）」です。四者とは、学者、役者、医者、易者の4つです。つまり、教師はこの4つの要素を兼ね備えていなければならないということです。確かに、中学教師の仕事は多岐にわたります。教科の授業にはじまり、清掃指導、進路指導、学活指導など。修学旅行では「添乗員」になり、体育祭ではムカデ競争やリレーの「コーチ」になり、合唱コンクールでは「音楽評論家」になる。放課後は、女子バスケットボールの「コーチ」や「審判員」にもなる。また、それぞれの場面で生徒からも指導を期待されます。授業だけでなく、いろいろな面で指導力を持っている教師が尊ばれ



ます。

新学習指導要領では、「生きる力」の育成が重要視されています。これにともない教師の役割も大きく変わろうとしています。コンピュータが発達した現代、多くの知識を獲得することよりも獲得した知識をどのように活用していくということが重要になってきます。単に知識を伝達するだけでなく、生徒の自主的な学習活動を支援することが教師の大きな役割になってきます。新しい学習活動の創造や特色ある学校づくりが課題です。したがって、単なる知識だけでなく、自ら考え、行動することができる創造力や行動力が大切になってきます。マニュアル通り行動できる人物よりマニュアルをつくりだす人物がこれからは大切なのだと思います。もっとも、これは教員の世界だけではないと思います。そのためにも、学生時代に多くの経験を積んでおくことが大切です。

教員採用試験体験記（技術・家庭科）

墨田区立本所中学校教諭 小室 賢一（平成2年 文学部国文学科卒業）

私は国文学科卒業ですが、現在は技術科の教員をしていますので、多少経歴を書こうと思います。平成二年に卒業し、練馬区の公立中学の国語科の非常勤講師になりました。以後講師をしながら採用試験にチャレンジしましたが、採用が少なく、また勉強不足もあって一次試験すら通りませんでした。平成七年、一念発起して比較的採用の多かった技術科の免許を取得することを決め、千葉大学・埼玉大学・筑波大学の科目等履修生になり免許をとりました。講師を続け、部活動のコーチをしながらだったので、かなり忙しかったです。今思い返すと「絶対教員になる。」という執念で続けたように思います。

採用試験の準備は、専門教養と教職教養については、問題集と教科書を中心に勉強しました。一般教養は、対策の立てようがなかったので、毎日新聞を読む程度でした。論文については、一次試験ということで受験者数が多く、自分の考えをアピールし、採点者の印象に残るような説得力のあるものにしないと合格は難しいと思います。そのために、自分の教育観や問題解決のための具体策まで盛り込んでいくべきだと思います。私もで

きる限り時間をかけました。書く順序としては、第一に自分の経験と教育観、第二に具体策を二つほど、最後にまとめを書きました。また、指示された字数いっぱいになるように努めました。書き出しは、読み手の興味をひくように会話をし、実際の現場の様子を書くようにしました。私は数年間の講師経験が生かせましたが、自分の経験を書いても良いと思います。次に問題解決のための具体策ですが、必ず質問の解答にするよう心がけました。あいまいな答え方では説得力がないからです。例えば「個性を生かすために、どう努力するか」という質問なら、「個性を生かすために一人一人を理解する努力をする。」と答えて、その具体策として、「毎日一行日記を書かせ、生徒一人一人と対話し、返事を書き、特性を理解する。」というように、とにかく具体的に書きました。最後のまとめでは、自分一人で解決しようとせず、諸先輩に相談し経験を聞き、謙虚にやっ

ていく姿勢が必要だということを書きました。全体を通して注意したのは、教員になったらこうしたいと思うという希望的表現を使わず、教員としてこう努力する、覚悟である、所存である、など強い

意志が感じてもらえるように書いたところです。面接においては、論文で考えた自分の教育観を基本にして質問に答えました。この点からも、論文に時間をかけたのは良かったと思います。かなり突っ込んだ質問があり、

即答できないものもありましたが、そこは「今ここでは即答できませんが、教員になって諸先輩の経験を聞いたり、研修会に参加するなどして答えを探していきたいと思います。」と正直に答えました。相手はベテランですから、下手なその場限りのごまかしはきかないと思ったからです。

模擬授業は、大きな声で堂々と話し、黒板には、生徒が発言したことを大きい字で書きました。実際に生徒はいないので、発言したかのように一人芝居をしました。

これから教員を目指す皆さん、試験に合格しなければスタートラインには立てません。ですから、ある程度の合格テクニックは覚えておいた方がいいと感じています。私は、随分回り道をし、教科まで変わってしまいましたが、後悔はありません。生徒が卒業するまで苦労はたくさんありますが、卒業日の日に苦労は報われます。生徒たちの「先生と出会えて良かった。」という一言がそれです。

小学生の時、「素晴らしい伸びを見せています。」と通知表に書いてありました。それまで自分に自信が持てなかった私を変えた一言です。その先生に出会わなければ、今の自分はなかったと思います。これが教員を目指したきっかけです。人の人生にこれほど鮮明な印象を残し、一つの言葉が人間を変えていく職業というものがあったのかと感じたからです。

現在の教育現場では、意欲ある先生が増えることを切に望んでいます。生徒と共に過ごす自分の姿を思い浮かべて頑張ってください。現場で心よりお待ちしております。



教員採用試験体験記（英語）

今市市立落合中学校教諭 黒本 千恵子（平成11年 文学部英米文学科卒業）

教師になって何がしたかったのか、どんな教師になりたかったのか……。教員試験突破を目指していたあの頃の思いを、常に心に留めて生徒と接したいと思っているものの、忙しい毎日を送っていると一日一日を消化することに精一杯で、自分が教師になろうと思った理由さえ忘れてしまいそうになります。生徒と接し、何かしらその生徒の輝きを見つけない、というのが私の教員になる最大の目的だったにも関わらず、仕事に追われ、生徒とのコミュニケーションは二の次にしてしまっているような気がします。「理想」と「現実」……。どんな社会にもある言葉ですが、今の私はその狭間で両方向から押されながらも、自分の進むべき道をどうにか切り開こうとしている状態です。



中央が黒本先生

実を言うと、私は教員採用試験直前まで一般企業への就職を希望していました。もちろん、教職課程をとっていたわけですから教師になりたいという夢もなかったわけではありません。“教師”は、子供の頃から常に、いくつかある夢の中の一つでした。しかし、英語

が好きになるにつれ、英語を最大限に生かせ、国際色豊かな職場で働きたいと考えるようになったのです。

しかし、ある時を境に一般企業のための就職活動を一切やめてしまいました。教育実習がその転機でした。実習直後に入っていた憧れの企業の試験にさえ行こうとは思いませんでした。教師という仕事に触れ、その仕事の深さに、今までにない感銘をうけたのです。思春期の子供に何かしらの影響を与え、その子の成長に携わることができる。そんな、計り知れないこの仕事の魅力に触れてしまったのです。そしてその、聖職とも思えた職業が私の進むべき道だと自負したのです。「私にはこの仕事以外考えられない。私が教師にならなくて、誰がなる！これこそ天職だ。」

と思っていた程でした。（今考えるとその自負心が恐ろしいのですが……。）そう決断したのは教員採用試験2週間前でした。

教員採用試験のための勉強を本格的に始めたのはそれからです。絶対教師にな

る！と決意したものの、時間が余りになさすぎました。栃木県教員採用試験の一次試験は、一般教養・教職教養・専門教科・作文・グループ面接です。一般教養に関しては、一般企業を目指していた頃にある程度取り組んでいたので時間をかけるのはやめました。専

門教科（英語）に関しても、自分が好きで興味のあったものなので、大学の授業やTOIEC対策に普段から力を入れていたため、特別な問題集等をする事はありませんでした。私は限られたわずかな時間を教職教養・作文・面接のために費やしました。特に、作文・面接対策に力を入れたのです。どのようなことをしたかという、理想の教師像・教師になる目的・教師に何ができるかなど、自分の教師に対する考えをひたすらノートにまとめたのです。これは作文・面接にとても役に立ったと思っています。ノートに書き出すことにより、自分が教師を目指している理由が明確になってきました。目指す教師像、教師への熱意がゆるぎないものになったのです。

まだまだ教師の事など何も分かっていない私ですが、現在教師を目指している方々に一つだけアドバイスをさせていただけるなら、まだ時間に余裕のある学生時代に様々な経験を積むことをお勧めしたいと思います。当たり前ですが、教師になって初めて教師の気持ちを理解しました。逆に、教師になった私には分からない、他の職業の方の気持ちがあります。教師には分からない生徒の気持ちがあります。英語好きの私には分からない、英語嫌いな生徒の気持ちがあります。他人の気持ちなど、そう簡単に分かるものではありません。しかし多くの立場を経験する事により、多くの立場・多くの人の気持ちを理解できる（しようとする）手段を得られるはずです。

経験豊富な教師を目指しています。まだまだ経験足らずです。

教員採用試験体験記（商業）

倉敷市立児島第一高等学校 甲本 幸資（平成12年 商学部商業学科卒業）

私が真剣に教員になりたいと思うようになったのは、3年生が終わる頃でした。私は商業高校を卒業していたこともあり、大学へ入学した当初の目標は税理士になりたいと思っていました。その自分が教員になることを決心したのは、3年の夏に税理士試験に失敗したことからです。私は大学に入学してから、税理士という目標に向かって勉強をしていたのですが、試験に失敗し、自分自身を振り返ってみた時に、自分は税理士という仕事ではなく、その名前に憧れていたことに気づかされました。その時に思い出したのが、サークルで先輩に簿記の勉強を教えていた時の「教えることの難しさ、分かってくれた時の嬉しさ」でした。教師は子供の成長過程において大きな影響をおよぼす仕事です。これからどんどん難しくなっていく職業ではあるけれど、それ以上に子供から与えられる喜びや感動は、他の職業にはないものだと思います。

スタートから出遅れた私は、まずなからやればいいのかと考えました。そこで商業の教員を目指すのだから、なにか自分の武器が必要だと思いました。私は簿記が得意だったので、これしかないと思い勉強しました。しかし4年生の採用試験に間に合わせるためには、3年生の11月にある検定に合格するしかありませんでした。それに簿記検定1級になるとそんなに簡単には合格できません。私も過去に何度か挑戦しましたが、不合格となった試験です。そんな時に役に立ったのが、幸運にも税理士の時の勉強でした。

その後は大学の後期試験もあって、採用試験の勉強は試験が終わってから始めました。そこでまず

何からしたかという、受験する県を選びました。その訳は県によって出題形式や科目が異なるため、試験勉強の効率が悪くなると思ったからです。私は経験のため、できるだけ多くの県の採用試験を受けようと思っていました。実際に受験したのは地元の岡山県と新潟県・石川県です。採用試験はブロック別に日程が組まれているため、4か所くらいは受験可能だと思います。しかし地元は当然として、なぜ新潟県と石川県を選んだかというと、新潟県は高校の採用枠が多いということ、石川県は1次・2次の試験区分がなく、最後まで試験を受けさせてもらうことができるという理由からです。結果は岡山県だけ合格しましたが、石川県での面接経験が岡山県の2次試験に大きく影響しました。みなさんも学生という自由な時間がある特権を生かして、多くの県を受験することをおすすめします。

筆記試験の勉強は教職教養と専門教科中心の勉強をしました。一般教養は範囲が広いため、あまり効果がないと思いほとんどしていません。特に中学校や高校の教員の場合は、専門教科の能力が重視されるため、重点を絞った勉強をしたほうが効果があると思います。専門教科の勉強は、高校の教科書を購入し勉強しました。教職教養は市販されている問題集を何冊か繰り返し勉強しました。論文はいくつか出題されそうな題について練習しておくと思います。そのときに受験する県の過去問の

文字数や時間を調べ、実際の試験を想定してやると、より集中してできるのではないのでしょうか。面接に関してはあまり参考書に頼らず、ありのままの自分を出せばいいと思います。教師経験のない人が分かったようなことを言っても、説得力に欠けます。そんなことより、自分は教師になりたいという気持ちが最も大切だと思います。うまく言えなくても、その気持ちは試験官に通じています。



私もまだ教師になって半年しか経っていません。最初は戸惑うことも多いですが、教師にとって最も大切なのは、生徒を思いやる気持ちだと感じています。学校では勉強を教えることも重要ですが、それ以上に生徒の気持ちを理解してやることのできる教師でなければならぬと思います。そのために学生時代に多くの経験をしてください。いつかその経験が役に立つときがくると思います。採用試験は大きな壁ではありますが、その先にはいろんな生徒との出会いや感動が待っています。私も皆さんが採用試験を突破されることを心から祈っています。

教育実習生から（地理歴史）

実習校：東京都立成瀬高等学校 経済学部国際経済学科4年 五十嵐 卓司

教育実習期間中は大学生ではない。教師なのである。このことは何を意味するかお分かりだろうか。厳しいことを述べるが、学生としての甘えは一切通用しないのである。しかし、努力をすればその報いは必ず感動として表れ、そして教育実習を行った後の人生を豊かにすることは間違いないと私は思う。

私が実習を行ったのは、私の母校東京都立成瀬高等学校だ。男女共学で進学校と評されながらも自由な校風であるため、実習生にとって、知的な生徒もいてかつ縛られることもないのでとてもやりやすい高校だと思う。この高校で私は2学年3クラスに対して世界史を12時間担当した。

一見何も問題がなさそうだが、大きな落とし穴があった。それは担当教諭との相性が悪かったことである。担当教諭との相性は運とよく言われるが、私は運が悪かったのであろうか。たとえば、私はすぐにでも教壇に立ちたかったのだが、担当教諭の意向で実習生の中では一番遅かった第2週目からの教壇デビューとなった。他には第1週目の間に、授業範囲の変更を言われ、「じゃ来週からよろしく。場所は少し進んで教科書の28ページの3行目からお願いするよ。」と細かな指示を受けて、スムーズな授業計画が立てにくくなった。しかし他の実習生に聞いてみると、担当教諭が気を使ってくれて、実習生が計画を立てやすいよう単元のはじめから任されるのが普通なようであった。私はこの細かな指示に対応できず、復習と称して単元の最初から授業をなかば強引に行った。そして授業終了後、「復習ばかりでなかなか進んでないね。」と一言、アドバイス（？）を受け、

その授業に対する反省を終えたのであった。このようなわけで、担当教諭とは実習中は形式的なやりとりがほとんどであった。その代わり、他の先生方とは担当教諭の目につかないように（担当教諭は自分の机にいつも座っている人だったので、たやすいことであった。）できるだけコミュニケーションを取るよう心がけた。特にもう1人の世界史の先生は私の状況を理解してくださり、自分にも担当実習生がいて忙しいのにもかわらず、私の相談に乗ってくださり、いろいろアドバイスをしていただき、とても助かった。

実習期間のもう1つのポイント、生徒との関係はどうだったかと言うと、最初は打ち解けることができなかったが、私が生徒に歩み寄る努力をし続けると、生徒の方もそれを感じ取ってくれたらしく次第にコミュニケーションを取るようになった。最初はやはり定番である掃除と一緒にいたり、放課後なるべく実習生の待機室にとどまる事をせず、校内をウロウロしてみた。この時に大事な事は『生徒は我々が考えているよりも、はるかに敏感であり純粋である』という事である。このことを忘れずに生徒と接していれば、そのうち生徒の方が我々の気持ちに気づいてくれることは間違いない。生徒との良い関係は授業にもつながってくるので、はずかしがらず積極的に我々の方から声をかけるべきである。



中央が五十嵐さん

最後に実習期間の中で、高校では最も重要となる授業運営について述べよう。私は授業を行う際に3つのポイントを忘れずにいた。そのため、手前みそで恐縮なのだが、酷評もなくスムーズに授業が行えた。私が考える3つのポイントとは、知識・技術・情熱の重要性である。

知識は、いかに教材研究をするかによって決まる。教えようとする知識の数倍は身につけておかないと、深みのある授業はできない。技術とは知識をいかに上手に伝えるかである。これは実践経験を積むしかない。私は誰もいない教室で板書練習を含む模擬授業を行った。この時暇な実習生などに見てもらい評価してもらおうと良いだろう。（私は暇な人を見つけられず、1人あやしく行っていた。）そして情熱なくしては、生徒の好奇心は引きつけられない。

こうして2週間の実習期間を無事に終え、教師を目指す者として、人間として成長することができた。教育界は他の世界と比べこれからより厳しくなってゆくだろう。しかしその代わりに得るものも大きい。精一杯努力をし、実りある実習生になるようみなさんにもがんばってもらいたい。

教育実習生から（地理歴史）

実習校：神奈川県立松陽高等学校 文学部人文学科4年 小島 理恵

私は、教育実習を母校である神奈川県立松陽高校で実施させていただきました。実習前に先生方より「今の高校生は小島さんが高校生だった頃とはちょっと違ってきてる」と言われていたので、かなり身構えて実習にのぞみました。確かに見た目など変わっていましたが、実際に話をしてみると、高校生らしく素直でとても安心しました。また私が担当したHRクラスはとてもまとまりのあるクラスで、とても協力的だったので実習はとても楽しく、やりやすかったです。

しかし授業の予習、復習は予想をはるかに超えて大変でした。私を担当してくださった先生はとても良心的な方で、とても早くから実習範囲を決めてくださいました。そして「教育実習中はとても忙しく予習している時間がないから、早くから大まかに予習をした方が良い。」とアドバイスをいただきました。だから私は、6月5日からの実習の為に4月頃から予習をして、何度も実習校に赴き、先生と打ち合わせや模擬授業をしていました。それにもかかわらず、実習中は予習・復習に費やす時間が少なく、睡眠時間を削って勉強するような状態でした。だから、もしも担当の先生からのアドバイスがなければ実習はどうなっていたのかわかりません。教育実習において正直な話、「担当の先生との相性も大切だな。」と思いました。担当の先生がごまでの教育実習を求めているか、実習生がどのような授業をしたいかという事のギャップが小さければ良い教育実習ができると思います。私は担当の先生とたくさん打ち合わせをしてそのギャップを埋めました。その打ち合わせの中で、担当の先生が実

習生に求めている事を考え、自分がどんな授業をしたいのかをしっかりと伝えるようにしました。その為、授業の中でいろいろな形式を試す事ができ、授業を少しずつ変えていくことができました。その結果生徒から「先生、この前の授業よりも今日の授業の方がいいね。」と言われることもあり、とてもうれしかったです。

こうした成長を最後に披露する研究授業ではとても緊張しました。前日の予習も手につかず、緊張の最高潮でした。そんな時、高3の担任の先生から「自分らしい授業をすればいい！うまくやろうなんて思うな！」と励ましの電話をいただきました。心が軽くなり予習にも力がはいりました。その為、研究授業は満足できる授業ができ、校長先生などにお褒めの言葉をいただきました。この研究授業の様子は部活の顧問の先生がビデオでとってくださいだったので、私が2週間がんばった成果が記録に残ってとてもうれしかったです。

教育実習の2週間は本当に大変

です。しかし今までの人生で味わった事のないような満足感を得ることができます。そして自分自身を見つめ直し、成長するきっかけとなると思います。実際に、私は就職希望でしたが実習に行きました。実習期間中に受けたい会社を数社ののがしてしまいましたが、後悔はしていません。逆に教育実習を武器に現在は就職活動をしています。それだけの価値が教育実習にはあると思います。これから教育実習に行く後輩の方へのアドバイスが3つあります。1、母校の先生等とは卒業後も交流しておく事。2、実習前に予習はできるとこまでしておく事。3、担当の先生との打ち合わせは大切にする事。この3つが私が良い教育実習を行なえた要因だと思っています。もちろん生徒と仲良くすることも必要ですが、生徒は教育実習生が来る事をとても楽しみにしています。身構えないでいれば生徒とは自然と仲良くなれます。これから教育実習に行く方はいろいろ心配せず、自分らしくがんばってください。



中央が小島さん

教育実習生から（公民）

実習校：神奈川県私立武相高等学校 法学部法律学科4年 天野 理

「えっ、お前が先生になるの。」私のことを良く知らない友人、知人たちは、口裏を合わせたかのように、この台詞を吐く。事実、私は聖職者と呼ばれる神のごとき教師にはほど遠い人間と言われても仕方が無い。

しかし、私には二つの自負がある。一つは、気合である。私は今まで気合だけで世の中を渡っていきけると信じて生きてきた。二つ目は、誰よりも学園ドラマを見ていることだ。「熱中時代」、「スクールウォーズ」、「3年B組金八先生」の話をすれば、48時間は喋り続けられるドラマオタクなのだ。私は現代において化石のような存在になった熱血教師を目指しているのだ。

こんなに暑苦しい私にも当然、教育実習の日はやって来る。初日から授業を行って欲しいと言われていたので、前日は、夜中の3時過ぎまで予習、多少寝不足気味ではあるが、気合全開で母校へと向かった。

1時間目から早速授業を行うことになっており、指導教諭と打ち合わせをしていたところ、先週まで中間テストのため、今日はテストの返却だけで通常通りの授業はしないと言われた。啞然としていた私に、指導教諭は「まあ今日は、俺の下手な授業でも見てくれよ。」と声をかけてくれた。そんな、下手なんて減相もないと心の中で思っていたのだが、言葉に出たのは、「はい。」という非常に歯切れの良い返事だった。実習では、1年生を2クラス教えた。初日の自己紹介は、かなり気合の入った私だけにやはり空回り。途中何を言っているのか分からなくなり、お粗末なものであった。在学中は気付きもしなかったのだが、皆やる気の

ある先生方で、生徒を第一に考えて授業や学級運営をされているのをひしひしと感じた。指導教諭は、決しておごらず私の授業方針や考え方などに関して一切口を挟まず自由にやってみろという先生であった。

実習中に最も心がけたのは、絶対に生徒を先入観を持った目で見ないということであった。ちょうどその頃、十代の少年による凶悪な事件が多発していた。しかし、現代における十代の若者、特に、高校生全員が果たしてマスコミの言うように、皆キレやすく直ぐに手を出すのであろうかという疑問が、常に頭の中にあっただので、彼らをキレやすい十代と見るのは止めようと思ったのだ。

初日の空回りを反省し、二日目以降は、たっぷりと睡眠をとり、メリハリ、抑揚のある授業を心がけた。私は、延べ14日間教壇に立って授業をしたので、生徒たちと接触する機会も多く、とても仲良くなることができた。私の気合と

熱いハートが伝わったのかと思っていたら、最後の授業の感想文で、ある生徒に「合わせていくのが疲れた。」と書かれ、少し落ち込んだ。

私が実習を行った中で得たものは、たった一つ。それは、今の子どもも私が高校生だった頃と何ら変わりがないということである。彼ら自身は、それほど変わっていないのだ。では、何が変わって荒れる十代と言われているのであろうか。私は、むしろ彼らを取り巻く大人たちの責任だと思う。大人が変わらなければ、子どもは変わることはないのだ。実習校に生徒たちは、多少悪ぶっている者もいないことはないが、総じて素直ですばらしい生徒たちであった。彼らから見れば私も大人なのであろうが、立派な大人とは言えないし、そんな者になれはしないとも思う。でも、キレやすい子どもをつくるような大人にだけはなりたくないし、ならないようにしようと思った。



教育実習生から（国語）

実習校：東京都私立専修大学附属高等学校 文学部国文学科4年 日置 真理子

私は六月の二週間、教育実習生として母校の高校で色々な事を学んできました。

実習の一週間程前にオリエンテーションがあり、その日に担当教科と単元、担当教諭の発表がありました。私の担当は二年生の古典で、受け持つクラスは全部で5クラスでした。このうちの1クラスは担当クラスとしてHRをすることになっていたの、そのクラスの名簿と写真をもらい、覚えるようにしました。実習が始まってしまうと、教材研究や日誌の記入など色々なことに時間を使ってしまうので、生徒の名前を覚えるなどの準備はできるだけ時間のあるうちにしておくと思います。HRの時など名前を呼んで顔を見るときで生徒も良い反応してくれるし、自分自身の自信にもつながりました。

授業に関しては、初めの何日かは授業を参観してから教壇実習をするのが普通だと思っていましたが、私は実習の初日から教壇に立つことになりました。初日は指導案をもとに進めたつもりだったのですが、板書の仕方や話す順序、発問の仕方などに戸惑い、一方的な説明になってしまいました。これを改善すべく、それまでに作っていた大まかな指導案を授業をする度、毎日のように作り直していました。また、授業の後に先生にアドバイスをしていただいたり、他の先生の授業を参観させていたことが、実習をする上でとても大きなヒントになりました。先生のアドバイスや参観させていただく時間はとても大切なので、できる限り積極的にとるようになるといいと思います。私が先生のアドバイスでとても反省したことは、「古典の授業は、生徒と

古典の世界を近づけてあげることだ」と聞いて、それまでの自分の教え方は自己満足だったと気付いたことでした。その後、参観をいくつもしていくことで、生徒に興味を持たせるには、生徒自身と古典の世界との共通点がとても大切だと気付きました。また、そのためには、私自身がその作者や作品、当時の生活や文化に興味を持つことが、授業中の話題を広げ、生徒に現代の文化などと比較させ考えさせる要素になってくるとわかりました。教える時に、自分が関心を持ったことは楽しんで教えられと思います。そうして教える側が自信を持って授業の環境を作ると、生徒も安心してその中に入り込んで想像を広げてくれると思います。生徒に色々な発問をして、答えさせることは、授業として当たり前のことに思うかもしれませんが、このように生徒に想像させてキャッチボールを図ることはなかなか難しいことです。しかし、その分それが上手くいくととても楽しいし、生徒を古典に近づける切っ掛けになると思うので、指導案を作成する時には、話題や発問をたくさん用意して進めることをお勧めします。

また、教材研究の他にも難しいことがありました。それはクラス運営です。HRでは生徒の立場の時には考えなかったことも鋭くチェックしなくてははいけません。生徒の服装、遅刻状況、提出物の状況、態度、そして体

調にも気を配ることが必要です。また、生徒に前を向かせて話を聞かせることも大切です。初めのHRで英検の申込書を配り、終礼で回収したのですが、正確に記入した生徒がゼロに等しかったことに愕然とし反省しました。生徒への指示の出し方や注意の仕方など、練習もなくアドリブ状態での実習になるので実習生としての力量が見られるところだと思います。短い時間に色々な面に注意を払うことは本当に難しく、二週間HRをしましたが、私は全てに気を配ることはできませんでした。

実習中、反省することは毎日のようにありました。しかし、それを乗り切れたのは、前向きに、楽しんで実習をしようと思っただけだと思います。そして何よりそうしていることに、生徒が応えてくれて、応援してくれたからです。実習の間に生徒と積極的に接することはとても大切だと思います。

クラス生徒のみんなが私を覚えてくれるように、私もクラスの一人一人を覚えて接することができたことを今でも嬉しく思います。



中央が日置さん

教育実習生から（英語）

実習校：東京都立昭和高等学校 文学部英米文学科4年 瀬尾 景子

私が実習をしたのは、東京都立昭和高等学校で、教科は英語で、担当は2年生でした。これを読んでいる皆さんの中には、来年教育実習を控え、色々と不安を抱えている方もいることでしょう。でも、初めから上手くできる人はいないことを覚えておいて下さい。

事前の打ち合わせでは、指導の先生から教科書や、クラス写真と名簿を渡されましたが、まずなから始めたらいいかと迷いました。教科書の単語や熟語を調べてはありましたが、自分の予習の仕方がいかに甘かったかを、後で思

をして、どうしたらテンポよく授業が進むかを検討し、説明の仕方ひとつひとつまで決めていきました。授業の前に何度も手順を復習したり、家で時計を見ながら実際に説明を試みたりもしました。時間がかかることが把握できるようになって、授業の手際が少しずつよくなりました。声も大きくなってきて、メリハリがつくようになったと先生に言われました。指導教諭の先生には本当に感謝しています。

失敗は、たくさんありました。小テストの間に職員室に配布物を

取りに行ってしまうたり、アメリカの地図を書き間違えたり。いつも学校の中をバタバタと駆け回っている感じでした。失敗して悔しい思いをした後は、次は必ず上手くやるぞと心に思いました。

HR担当のクラスの授業は2週目からだったので、その前に名前を覚えようと、放課後の掃除と一緒にやるなどしました。自己紹介カードにクラブなども書

い知らされました。どういう手順で説明するか、板書はどのようにするのかなど、細かい所まできちんと決めておかないと、授業中あたふたしてしまいます。50分は本当にあっという間です。時間配分と手順が大きなカギを握ります。

私はなかなか、授業がスムーズにできませんでした。音読を最後に持ってきたのですが、いつもその前にチャイムが鳴ってしまうのです。指導教諭の先生と毎回反省

してもらって、名前を覚えて声をかけると、生徒はとても嬉しそうでした。授業が始まるころには、名前と顔も一致し、落ち着いて授業ができました。

放課後は、授業の予習や実習日誌をつけたりと忙しいですが、クラブ活動にも顔を出してみるとよいでしょう。授業中には見れない生徒の一面を見ることが出来て大変面白いです。私は、少しずつ色々なクラブを見学して回り、そ

こでクラスの生徒と話したりもしました。生徒の方から「先生！」と声をかけられるようにもなりました。

授業を繰り返して、生徒と接していくうちに、最初は不安と緊張だらけだった私の中に、だんだんと先生という自覚が生まれてきました。また、教えるということが、こんなに大変なことだったのかと改めて知りました。自分が生徒だった時には、考えも及ばないことでした。

実習の最後には、ぜひ感想を書いてもらって下さい。ある生徒は授業の感想に、「先生が一生懸命だから僕も頑張ろうと思った」と書いてくれました。自分の姿勢は生徒に伝わるのだと知り、とても嬉しかったです。今でも時々読み返して、実習のことを思い出すと、背筋がピンと伸びるような気持ちになり、頑張ろうと思えてきます。

先日、久しぶりに教育実習校へ行ってきました。担当したクラスの生徒に「先生」と声をかけられ、「自分はこの子達にとって、ずっと先生なんだな」と思いました。教育実習は、たった2週間ですが、あんなに充実した、密度の濃い日々は、人生の中でそう何度もないでしょう。

冒頭にも書きましたが、最初から上手くやろうとせずに、勉強をさせてもらう気持ちで、失敗を恐れず、とにかく全力でぶつかってみて下さい。教育実習が出来ることは、とても素晴らしいことです。一生懸命やってみると、上手いこともそうでないことも含めて、自分の糧になることと思います。教師という仕事の、良さも大変さも知ることができるよい機会になることを願っています。

教育実習生から（商業）

実習校：神奈川県私立横浜高等学校 経営学部経営学科4年 小杉 義志

私は、神奈川県にある横浜高校で教育実習を行いました。横浜高校は普通高校なので、商業科の授業はないのかもしれませんが選択科目の一つとして簿記と国際経済の授業がありました。

野球など、スポーツが盛んなだけでなく、勉学にも力を入れている学校のせいか、「あいさつ」が出来ていたことに驚きました。礼儀正しく出来ているからこそ、スポーツや勉強もできるのだと感じました。

私は、教育実習に行く前はすごく大変だというイメージを持っていました。しかし、具体的にどんなところが大変なのかまったくわかりませんでした。実習を通じ実感したことは、時間が足りないことでした。家に帰ってくると、その日の日誌や次の日の学習指導案をつくるのに精一杯でした。実習に行った先輩から教材研究をたくさんしておくようにとアドバイスをもらっていたので、前もって教材研究をたくさんしていましたが、それでも足りませんでした。結局一日の睡眠時間は3時間になりましたが、2週間ずっと緊張していたので疲れを感じませんでした。

今までは、教育を受けるという立場にいましたが、実習期間は「教える」という立場に立ちます。参観授業も、授業をうけ教えています「教える」という立場に立って参観授業するので、今まで受けていた先生方の授業がまったく違って見えました。

教育実習にあたり、私は「学校という教育現場を通して、教育というもののあり方を考えたい」という目標をたてました。現在の教育は、大学受験の勉強さえすればいいという風潮があります。しかし、大学受験にまったくといっていいほど関係のない簿記や国際経済の授業をやらなくてよいからといって、そうではありません。これらの授業は今すぐには役に立たないかもしれ

ませんが、社会人になった時、経済の知識は必ず必要になりますし、実際私は高校で経済の勉強をしなかったばかりに今苦労しています。そこで、大学受験の勉強が全てではなく、すべての科目・活動が生徒のこれからの人生に役に立つのだと感じました。

大学というものは人生のゴールではないはずです。生徒の今を考えるのはもちろんですが、将来を考えることがもっと大事であると思います。教師の仕事は、生徒が持っている資質を引き上げることだと思います。

そう考えると、教師というものは総合的な能力を兼ね備えている事が求められているのだと思います。教師が豊富な経験を持っていれば、生徒にもその経験を話してあげることが出来ます。しかし、教師の100もっている知識が、生徒にはどれくらい伝わるでしょうか？10も伝わらないと思います。私はまだまだ経験が浅いと思いますので、これからいろいろなものを実際に見て、さわって感じる事で経験を豊かにしたいと考えています。

私のホームルームクラスは1年生でした。教壇実習をしていたクラスは、2年、3年生だったので、ホームルームのクラスの生徒とコミュニケーションをとることがあまりできず、仲良くなれなかったのではないかと思います。もっと生徒とふれあって、コミュニケーションをとって生徒のことを理解できれば良かったと後悔しています。生徒とふれあうこと、それは、学校でしかできないことではないでしょうか。もう一度実習ができるとすれば、お昼休みにお弁当をもって教室にいき、生徒とコミュニケーションがとれ

るようにしたいと思います。

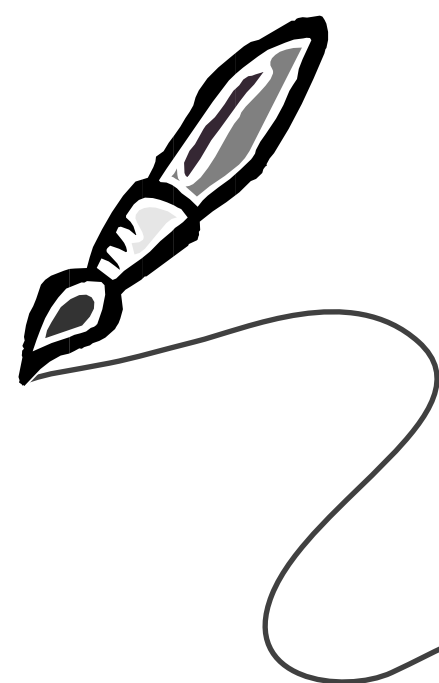
教壇実習をするにあたって、教科書を覚えるほど読んだり、ノートをまとめておいたりすることで、読み間違いや書き間違いをなくせると思います。そうすることにより、時間を有効に使うことができます。授業中は、生徒のときは長く感じましたが、実際に教壇に立ち授業を行うとなると、時間はすごく短く感じます。時間内によい授業を行うには、事前の準備をしっかりやっておかないといけません。十分な準備は余裕をうみ、生徒一人一人まで目が行き届くことになると思います。

私は、本当に横浜高校を卒業し、なおかつ母校で教育実習をさせて頂き、うれしく思いました。睡眠時間も本当に少なかったのですが、充実した2週間を過ごすことができました。そしてなによりも、貴重な体験をさせてもらったと思います。実習で得たものは知識ばかりでなく、人を思いやる心や苦楽をともにしてきた仲間などです。これからも常に勉強し、さまざまなことを体験することによって、今後の人生に役立てて生きたいと思います。実習期間の2週間は厳しいと思うかもしれませんが、精一杯がんばることによって、一生のいい経験や思い出がつけられると思いますので、ぜひ後輩の皆さんもがんばってください。



教育実習生たちと（前列1番左が小杉さん）

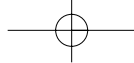
司書・司書教諭課程



Passo a Passo

Index

- 1 「町村立図書館づくりセミナー」報告 28
—— 専修大学経営学部講師 荻原 幸子
- 2 卒業生から 29
- 3 図書館実習を終えて 30



「町村立図書館づくりセミナー」報告

経営学部 講師 荻原 幸子

相

変わらず日本図書館協会町村図書館活動推進委員会の委員として、町や村に公共図書館を設置するための活動をしている。その一環として、9月に福島県で「町村図書館づくりセミナー」を開催した。私は昨年の群馬県のセミナーに続く2度目の参加であるが、このセミナー自体は10年ほど前から、委員会の主要なイベントとして開催されている。図書館という館をつくるのは、そこに莫大な資金（住民の税金）が投じられるのであるから大変な作業である。単なる「ハコモノ」ではないホンモノの図書館をつくってほしい、そのためには実際に図書館づくりに関わる行政の担当者の方々に図書館のことを十分理解してもらいたい、という目的でこのセミナーは始まり現在に至っている。今回は50名弱の参加者が、福島県伊達町立図書館に集合した。地元である福島県内はもとより、岩手、宮城、新潟、岐阜、奈良、そして沖縄からとバラエティに富むメンバーであった。さらに、参加者の職名は、「公民館副参事」「公民館館長補佐」「教育委員会主任」「教育委員会社会教育係長」「教育長」「助役」「企画開発課長」等々、こちらも多彩である。

セミナーは二日間にわたり、初日は講義と図書館見学、二日目は3つの分科会に分かれて研究討議を行った。プログラムは次の通りである。

<第1日目>

①講義

「公共図書館とは」
「図書館建築計画の進め方」
「国や県の補助金」
「資格をもつ館長と職員」
「資料の収集から整理」
「条例・規則等」
「図書館の成長」

②図書館見学

伊達町立図書館の概要説明と見学

<第2日目>

③研究討議

分科会テーマ

A：図書館を設置するまで

B：図書館運営

C：図書館建築

講義や研究討議の内容は、まるで司書課程の凝縮版とも言える。ただし聞き手は、行政については経験豊かなベテランでも、図書館についてあまり知らない方々である。「図書館のことを担当するよう、突然言われまして…」などと自己紹介する人も多かった。各講師は、ごく基本的な図書館の考え方や理念と、具体的・実践的な事項とを短時間で要領よく解説することが求められる。今回の講師陣は、現職の町立図書館長、図書館振興に携わる県立図書館職員、多くの図書館建築を手がけた建築士、そして私である。私は「公共図書館とは」の講義を担当し、○図書館の役割は住民の要求にもとづく資料・情報提供が主体であるが、逆に人々の新たな知的要求を引き出すこともでき、その点で生涯学習の原点、「まちづくり」の基調として位置づけることができること

○あくまで図書館の開館は“始まり”であって“ゴール”ではないことの2点をポイントとした話をした。私自身の講義の出来はともかくとして、特に打ち合せをしたわけではないのに、“開館がゴールではない”ことを各講師が強調したのは印象的であった。私はそれを、図書館の“次の一手”と表現し、「資料の収集から整理」の講師は図書館職員の仕事を“選書にはじまり選書に終わる”と表現し、建築や施設について担当した講師は開館後の“作り込み”（書架や壁面に色々な工夫を凝らしていくこと）の必要性を話した。「図書館の成長」を担当した講師が、資料費の確保や職員研修の必要性という観点からこのことを触れたのは言うまでもない。「良い図書館をつくって欲しい」の他に、「良い図書館であり続けてほしい」というセミナーの“願い”を、主催者側に席を置きながらもあらためて実感した次第である。同時にそれは、現在の図書館に対する警鐘と



日本図書館協会町村図書館活動推進委員会
が作成した小冊子
「つくりませんか図書館を…2000」の表紙

も言えないことはない。参加者の方からは、“今までは資金繰りばかり考えていたが、今回のセミナーで「図書館は人だ」ということがよくわかりました。”という感想を頂戴した。何よりの成果である。研究討議では参加者は3つのテーマのもとに分かれ、各自の地域の現状や問題点などを話し合った。「A：図書館を設置するまで」の分科会では、隣接する二つの自治体が共同で設置する構想、学校図書館を開放する形で設置を図る構想、駅前活性化事業との関連で設置構想が急浮上した状況など、様々な事例が紹介された。ここでは前日とは逆に、私が各地域の様々な状況を教えていただき大変勉強になった。

帰りの車中で広々とした田畑の広がる風景を見ながら、私にとってこうした活動は畑を耕す作業と同じだと思い至った。日常の司書課程の授業において、私は芽が出たばかりの図書館職員の苗を育てている。その育てた苗が立派に成長して花と実をつけるためには、十分に肥えた土壌（現場）が必要である。痩せた畑では、苗は十分に育たない。少しでも質の高い苗が育つように奮闘することと、その苗がさらに成長するべく土壌をせつせと耕すことは、どちらも今の私にはとても大切な仕事だと思うのである。一人でも多くの本学司書課程受講修了者が、現場で大輪の花を咲かせ続けられますように…

卒業生から「医学図書館に雑誌がなくなる日」

東京医科大学図書館司書 大谷 裕（平成8年 文学部人文学科卒）

現

在、私たちの日常は情報化社会を迎え、何事もめまぐるしいスピードで変化が訪れています。もちろん「医学」というジャンルも例外ではありません。日々、新たな症例や治療法が発見され、世界中に向けて発信されています。更にそれらをまとめて共通点・相違点を見極め、より効果的な治療を行おうという流れが世界的規模で進んでいます。そして医学図書館はその情報流通の窓口になるべく、日々奮闘しています。数ある図書館の種類の中で、最も情報流通の速さが問われるのが医学図書館です。

このように書くと他の図書館、特に身近な公共図書館などに比べ、随分趣を異にする感を持たれるかもしれませんが、図書館の基本的使命である「求められる情報を利用者に提供する」という一点において医学図書館は他の図書館と何ら変わることはありません。医学図書館で仕事をするようになって一年半が経ち、専門用語や情報検索ソフトの扱いにも慣れてきたこの頃、ようやく実感として感じられるようになってきました。

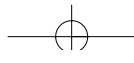
私は東京医科大学図書館本館で雑誌係として日々の仕事を行っています。実際、雑誌係の日常業務はどのようなものかと言いますと、まず受入業務。大体一日に和洋併せて三十冊の雑誌が届きます。休み明けで多いときには百冊を越えますがそうすると、雑誌データを入力するだけでほぼ一日が終わってしまいます。次に製本業務。バラの雑誌をボリュームごとに纏めて製本することにより、資料の紛失や劣化を防ぐことが目的です。製本自体は業者に発注するのですが、そのための準備全般や製本されて戻ってきたものの登録・排下

を行います。他には欠号や未着、廃刊など自館で受入れている雑誌の動向を細かくチェックするし、利用者に提供できるようにするのが雑誌係の主な仕事です。

そして最近新たに加わったのが「オンラインジャーナル」の登録作業。現在、多くの出版社が雑誌の内容全てをオンライン上で公開しており、パスワードなどを入力してアクセスすればどこからでも閲覧が可能となっています。そして今はまだ、雑誌を購入すればオンラインへのアクセスが可能というものが半数以上ですが、中には冊子の印刷を廃止しオンラインジャーナルのみに雑誌の形式を完全移行したものや、冊子とオンラインを別売りにしてどちらでも選べるようになっているものも出てくるようになりました。なんといっても「オンラインジャーナル」の魅力は、登録さえ済ませればどの端末からでもアクセスできる便利さともうひとつ、スピードです。現在、洋雑誌が日本に届くまでには船便を利用するため発行から早くても一ヶ月はかかってしまいます。そして米国国立医学図書館がネット上で運営している医学文献検索サイト「Pub-Med」はほぼ毎日更新され、広く医学情報を提供しています。その結果、先生が図書館に来ても資料が未着で、すぐに提供できないということが最近増えてきています。こういった際に「オンラインジャーナル」を利用すれば図書館に足を

運ぶことなく一気に解決できるわけです。これは医学に限ったことではなく、今後の出版流通システムを占う大きな分岐点となるでしょう。曰く「紙」という媒体を通じた「情報伝達」がなくなるのか、なくならないのか。少なくとも学術情報分野では、図書館に来なくても資料を入手できる時代がすぐそこまできているのかもしれませんが。そうなったとき、「図書館」はどうなるのか。そういったスリルを真っ先に味わえるのが医学図書館の大きな魅力です。

司書課程で学んだことに「図書館学は実学である」という言葉がありました。実際、図書館の仕事の八割はルーティンです。その残り二割が日頃の業務の中で自分が思いついたアイデアを試す部分。この二割の中で試行錯誤を繰り返し、よりよいものを自分なりに創り出し、八割のルーティン部分に組み込む。この繰り返しで司書の専門性は高まっていくのではないかと思います。今後、情報流通がどのように進んで行くにしても、それを心がけて日々の仕事に取り組んでいけば、どうにかやっていけるのではないのでしょうか。



図書館実習を終えて

実習館：川崎市立多摩図書館 文学部国文学科4年 野田 聖子

私は、8月1日から11日までの10日間、川崎市立多摩図書館で実習をさせていただきました。実習に参加することを決めたのは、実際の図書館の現場がどのようなものであるのか、自分自身で経験してみたかったということと、専修大学の司書課程で4年間学んだことの成果を感じたかったからです。



お話会の風景

実習で初めにしなければならなかったことは、「図書館業務の1日の流れをつかむ」ということでした。開館時間は午前9時30分から平日は午後7時までです。私は普段から、多摩図書館を利用していたのですが、「利用者」という立場からは見ることでできなかった図書館員の方々の忙しさを知ることとなりました。特に開館30分前は、館外のブックポストに投函された本を返却する作業や職員全員で書架の整理をしながら、他館で求めている本を探すという作業、開館を並んで待っている利用者の整理など、毎朝のこの30分という時間はあっという間に過ぎていきました。中でも特に苦労したのは、本探しでした。朝の作業中だけでなく、実習中を通して、図書館の中で一冊の本を探すということが、とても難しいことがわかりました。図書館の本は、利用者の方が探し

ている本を見つけやすいよう、図書館員の方が毎日欠かさず分類順に配架しています。しかし、利用者の方が間違っって棚に戻したり、手続きをせずに持ち帰ってしまったりして、あるはずの本があるはずの場所になかったりするので。私も何度かそんな場面がありました。利用者の方と一緒に探しても、どうしても見つからないのです。「ありがとうございました、もういいです」と笑いながらおっしゃっていても、やはり残念そうな表情を浮かべていました。私は、図書館で本が提供できないということが、こんなに辛いことだとは思いませんでした。

書架整理の時、図書館員の方が「図書館って、毎日単調な作業が続くんですよ」とおっしゃった後に「でもその作業が大切だったりするんです」と教えて下さったことがありました。実習の初めの頃はそれがどういうことなのか実感できませんでしたが、この時返却や貸出のカウンターサービスをはじめ、書架整理など、一見単調に思える作業でも利用者のことを考え、よりよいサービスが提供できるように、細やかな配慮や努力がなされているものなのだということに気づかされました。大学の講義で「図書館員は、現在の知識や状態に甘んじることなく、日々努力をしなければならない」ということを学びましたが、このことを実際の図書館という場所で、改めて心に刻むことができたように思います。

また、楽しかった思い出の一つに、実習期間中に行われたおはな

し会があります。夏休みということもあって40人ほどの子どもが集まりました。友達と一緒にの子、兄弟で手をつないで来た子、お母さんと離れづらくて泣いている子など、初めはざわざわしていた会場も、図書館員の方の「はじまるよ」の声を聞くと、みんなきちんと前を向いて座っていました。かみしばいや人形劇に見入って、大きな声で歌ったりと、子どもたちは本当に楽しそうでした。最後に、記念のシールをもらう順番をきちんと並んで待っている子どもたちを見た時に、前日からの準備や練習に参加して、おはなし会に参加できたことを本当に嬉しく思いました。図書館で働くということに、こんな楽しみや喜びがあるとは思ってもいませんでした。図書館が単に「本を借りる」という場所ではなく、公共のサービス機関として、幅広い人々に利用されていることを感じる出来事の一つとなりました。

短い実習期間でしたが、自分自身で図書館業務というものを実際に経験でき、講義では感じ取れないようなことなど、多くのことを学べる実習となりました。実際の体験は、図書館というものの厳しい現状や多忙な業務を知ることとなり、また、私が4年間学んだことは、「司書」という資格を持つ者として最低限の知識であり、図書館を運営し、利用者サービスを提供できるようになるためには、これからの自分の努力や図書館との関係によって築いていかなければならないものだと感じました。図書館実習の10日間は、かけがえない貴重な体験であり、一生の思い出に残るものとなりました。

図書館実習を終えて

実習館：座間市立図書館 科目履修生 石川恵理子

私が実習を行った館は、神奈川県座間市立図書館で、小田急線の相武台、座間の両駅から歩いて15～20分のところに位置します。12年度現在の座間市の人口は約12万人、登録者数は約8万人で登録率は66.2%の現状です。

職員は17名いますが、館長も含め有資格者は8名です。その日の日程は、朝に係長によって決められ、一時間単位の交代制で、カウンターや参考図書室、ビデオ、書庫などに割り当てられ、空き時間に自分の仕事をするシステムです。毎日の仕事は、カウンターに入る人を除いて職員全員の書架整理と返本作業から始まり、最後も返本作業で終わる流れとなっていました。特に前日休館日だった火曜日は、ブックポストに本がたまっているので時間がかかります。実習3日目は月に一度の館内整理の日でした。この日は図書館を閉館し、朝からずっと書架整理です。分類記号だけでなく図書記号まで揃えて細かく整頓するので午後を過ぎるまでかかり体力的にとっても疲れました。

館内には指で触って検索するタイプの端末が5台あり、新刊案内から、キーワード検索、図書館情報などを調べることができ、本の所在や、予約の状態を知ることができます。カウンターには、貸出、返却、ビデオと予備に分かれた4台の端末があります。土日の忙しい時を除いて、平日は2人の配置が多いです。レファレンスもカウンターで受けるのは平日の混雑していない時のみで、土日になると直接レファレンス室に行くよう指示します。カウンターには利用者が様々なことを聞きにくるのでその都度対応できるような臨機応変さが最も必要であると思いました。

またカウンターに入ることによって、利用者としてどうあるべきか学ぶことができた気がします。市の花から命名したヒマワリ号という移動図書館に乗って小学校と児童館へと2回参加しました。移動図書館は常に天候に左右され、猛暑や極寒のなか行うこともあるので、体力的に厳しい時期があるそうです。利用層は児童が圧倒的に多く、その地域に住民や本館で借りた本を返しにくる人もいます。移動図書館では利用者が決まってくるので、リクエストには答えやすく、その人が好きな作家の本を多く集めて持って行ったりするサービスをしていました。また、週に3回北地区、東地区の文化センターと公民館の3階への巡回に行きました。本館から各三館へ、または、北地区から東地区へと相互貸借している本の流れを追ってみて、まさに図書館システムが行われていることを実感できました。

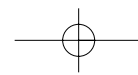
毎週水曜日は午前と午後1回約30分のお話会が開かれ、指遊びから絵本、紙芝居などをして子供たちと触れ合っています。お話をするのは、児童担当の職員とボランティアの人達で、私も絵本と紙芝居を読みました。立ち上がってうろついたり声を出してた子供達もお話が始めると静まり返って聞く様子はとても印象的で、アットホームな雰囲気で行われている様子が窺えました。私の空き時間は主に、本や雑誌のブックーや、バーコード、ラベル張りなど細

かい手作業が多い仕事に追われました。他には予約本を期限内に返却していない人へ督促の電話を掛けました。実際に予約本がどのような過程で回転しているのか知ることができて良かったです。

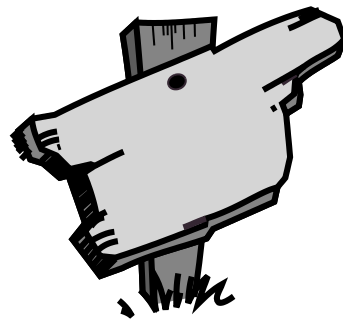
子供読書年にちなんで、9月9、10日に第1回図書館祭を行いました。「読む人も読まれる本も嬉しいね」をキャチフレーズに、様々な催し物が開かれました。この二日間は、晴天にも恵まれ、大変多くの利用者が図書館に来館し、図書館祭に参加した子供達の喜んでる姿を見て職員の人達も大変満足した様子でした。また、何日も前から多くのボランティアの人達によって準備が進められており、彼等の協力があったからこそ成功できたのだと思いました。この図書祭で実習を終えたことは、良い思い出となり、いろんな体験を経て有意義な2週間を過ごすことが出来ました。図書館で実際に勤務してみて、やはりこの仕事に対して魅力を感じ、その道に進めるようさらに勉強して努力し続けなければならないと思いました。



座間市立図書館概観



学芸員課程



Passo a Passo

Index

- 1 絵画は想像する 34
—— 専修大学経営学部助教授 内田 欽三
- 2 卒業生から 36
- 3 博物館実習を終えて 37

絵画は想像する

経営学部 助教授 内田 欽三

一、人間は空を飛べる

人間が空を飛んだのはいつかー、と質問したら、人々は不審を抱くことだろう。決まっているじゃないか、一九〇三年の十二月十七日、アメリカのノースカロライナ州キティホークで、動力付き複葉機で人類最初の飛行に成功したライト兄弟だ、と答えるのは物知りかつ真面目な人。が、中には、この質問がタチの悪い「なぞなぞ」か何かと疑い、「空を飛ぶ」という言葉に含まれるあらゆる謂を検討し、ヒネリにヒネった答えを出す人もいるはずだ。こっちは、やたらと疑い深い偏屈な人である。しかし、後者のやや穿った物の見方は、広い意味での文化現象としての絵画を考える際に、極めて重要な観点だと私は考えている。確かに、人間が空を飛んだのはそのアメリカ人の兄弟が最初に違いない。が、空を飛ぶという意味は、必ずしも身体が空中にあることだけを意味するものではない。本来、地上にある人間が空にあるという「位置」の違い、そこから何が見えるのかという「視点」の違いもまた、空を飛ぶという意味に当然含まれる。そして絵画の成立にとって、この「視点」こそ、一つの「要」なのである。つまり、この伝でいけば、人間は二十世紀の前から大空を飛んでいたのだ、少なくとも、その頭の中では。

実例を挙げよう。「江戸名所之絵」と題した版画が十九世紀前半に版行された。作者は鋤形蕙斎である。見るように、江戸を「航空撮影」したかのごときもので、当時すでに人口百万を越える大都市江戸をダイナミックに、そして実感的に描き出して見事というほかはない。繰り返すが、この版画はライト兄

弟が空を飛ぶ約百年前に出版されたのであり、日本人が空を飛ぶことに至っては、ライト兄弟の飛行の七年後、明治四十三年十二月、徳川好敏と日野熊蔵の二人の陸軍大尉による代々木練兵所での初飛行を待たねばならない。とすれば、ここに見る仮想の視覚体験がいかほどの驚愕事として江戸の大衆に受け止められたか、少しは想像できるのではなからうか。しかも、この版画はかなり多く残されており、相当によく売れたものと考えて差し支えない。つまり、江戸の連中は一瞬「ギョっ」としたものの、次の瞬間この新たな視覚体験を喜々として受け入れてしまったのである。

斎藤月岑著の『武公年表』の文政七年（一八二四）三月二十一日の条には、「画人鋤形蕙斎卒す。（中略）江戸一覧の図工夫し梓に上せ、神田の社へも江戸図の類をささげたり」と画家の没年を告げるとともに、蕙斎の活動を特色づける作品として「江戸一覧の図」を挙げており、それがこの「江戸名所之絵」だったことは疑いない。もとより、十六世紀の桃山時代、我が国には「洛中洛外図屏風」という俯瞰的な大景観図がすでに成立していたが、表現の実感的な再現性においては、東洋画の特異な遠近法を用いた「洛中洛外図屏風」は「江戸名所之絵」に遠く及ばない。であるならば、なぜこのような「信じられない」視点から描かれたリアルな江戸図がそんな昔に成立したのか。そして、どうして人々は、それをいともたやすく受け入れることができたのか、という疑問が出てきて当然ではないだろうか。

二、鋤形 蕙斎とその時代

まず、鋤形蕙斎の略歴を見よう。彼は明和元年（一七六四）江戸の畳職人の子として生まれた。若くして浮世絵師北尾重政に師事し、安永七年（一七七八）北尾三二郎の画号でデビュー。天明元年（一七八一）師匠の重政より北尾政美の画号を許され、北尾派一門が得意として黄表紙挿絵を数多く手掛け、一枚摺の錦絵や肉筆画にも筆を執っている。と、ここまでは同時代の他の浮世絵師と比較しても、ごく平凡である。が、この先が大方の想像を遙かに越えていた。寛政六年（一七九四）北尾政美は津山藩主松平越後守康哉によって御抱絵師に取り立てられ、鋤形蕙斎と改める。身分は「大役人格御絵師」で「十人扶持」、しかも「年々絵具代三両」を賜る。簡単に言えば、長屋に暮らしていた一介の庶民が突如として大名家に抱えられる「武士」へと破格の出世を遂げたのだ。一ははあ、きっと津山藩の御抱絵師の家が断絶し、困って、浮世絵師なんかを急拵えて御抱絵師にしたんだろうー、と早合点した人がいたなら、全く見当違い。なぜなら、この時期、津山藩には歴とした御抱絵師の家が存在していた。しかも、鋤形家は一時しのぎではなく、蕙斎以後、明治維新で津山藩が消滅するまで三代を数え存続したのである。

実は、「江戸名所之絵」成立の背景は、この時代の人々の連環の中で捉えることができる。浮世絵師時代の北尾政美は、平賀源内の文学上の弟子の森島中良の戯作や西洋文物の啓蒙書『紅毛雑話』などに多くの挿絵を提供したが、中良は幕府の蘭学の奥医師桂川甫周の実弟である。一方、先の『紅毛雑

話』に跋文を寄せたのが津山藩の蘭学者宇田川玄随。また、兄の甫周は、杉田玄白、中川淳庵、石川玄常らが推し進めた『解体新書』（一七七四成）の翻訳事業に参画し、同書の刊行元となった須原屋市兵衛は、政美の師匠北尾重政の父須原屋茂兵衛の一族。さらに、津山藩に出仕した蕙斎は藩主の命により狩野養川院惟信に入門して狩野派の画技を学ぶが、惟信の妻は官医千賀道隆の養女で、この千賀道隆と甫周は同僚の間柄であった。蕙斎が「江戸名所之絵」を成り立たせている西洋の合理的な遠近表現や、実体的な空間把握による絵画表現をどこから学んだか、もはや贅言を要しないだろう。彼の周囲に交流した蘭学者たちからの情報や教示なしに、これほどの完成度の高い表現はあり得ない。であるならば、津山藩が新たな御抱絵師の家を備えた理由は一体何だったのか、というのが次なる疑問だろう。

時代をさらに俯瞰してみよう。寛政四、五年（一七九二・九三）、ロシアの使節ラクスマンが根室や松前に来航する中で、鎖国体制の維持に危機を感じた徳川幕府の老中主座にあった松平定信は、この年、相模、伊豆などの太平洋沿岸の巡察旅行を行い、その海岸線の様子を自身の御抱絵師であった谷文晁に精密な写生図「公余探勝図巻」として描かせた。谷文晁の役割は、現代で言えばさしずめ従軍カメラマンである。そして、従来の狩野派の絵画が教訓的な画題を装飾的に描く技術であるのに対して、定信は絵画の持つ別の利点を自身の随筆『花月草紙』の百十五段「畫の事」にはっきりとこう述べる。「畫のこと、（中略）ことばと文章の及ばざるをたすくもの



「江戸名所之絵」

なり。いでやくろきしろきとは、いひもしかきもすれど、かかるをくろきといひ、とあるをしろきとは、何をもてあらはさん。さらに、この畫ありてこそ、ことばにもいひがたきことを、そのまゝにするなり」と絵画とは現実世界を正確に記録し、それを正確に伝えるところに意味があるという、驚くべき革新的な発言なのだ。で、定信の政治的な危惧はやがて現実のものとなる。嘉永七年（一八五四）アメリカ東インド艦隊が前年に引き続き浦賀沖に来航したのだ。が、このとき、江戸在住の津山藩の蘭学者宇田川興斎と箕作秋坪とともに神奈川に急行し、本牧沖（金海）のペリー艦隊の展開の状況、蒸気船の様子、士官と海兵、応接の状況などを克明に描き写した画人こそ、鋤形家二代目、鋤形赤子その人であった。

ここから先の疑問に対する一つの答えが明らかとなる。狩野派にないリアルな表現性、現実の再現力のある絵画を描ける画人を藩と

して抱えること、蕙斎そして鋤形家の役割とは、従軍カメラマン、スパイ衛星の写真機だった、のかもしれない。傍証として、鋤形蕙斎は松平定信のために「東都繁昌図巻」「近世職人尽絵詞」「黒髪山絵巻」、それに「吉原十二時絵巻」（現在は模本のみ）の四点を制作している事実と、津山藩祖松平宣富がもともと白河松平家の出身で、蕙斎を御抱絵師として採用した当時の津山藩主松平康哉こそ、定信がその随筆『宇下之人言』で「刎頸の交をなし」た人物、すなわち生死を共にするほどの親しい仲間と呼んだ人物であった点を指摘しておこう。

人間の視点は、想像力につながっている。そして、人々がどのような視点から物を見ようとしたのか、それが絵画という形で後世に残されるのだ。美術館には、そんな絵画がゴマンと展示されている。さあ、美術館へ急ごう。

卒業生から

通信総合博物館学芸員 垂見 直美（平成9年 文学部人文学科卒業）

私が勤める通信総合博物館は、郵政、電気通信、放送、国際通信の展示場から成る、それらの事業PRを目的とした博物館です。事務室もそれぞれ独立しており、私が働く郵政事務室は、広報、展示場保守を担当する企画係と、学芸班に分かれ、学芸班は、さらに切手資料と一般資料に分かれています。私は、現在、一般資料に所属し、図書資料を担当しています。具体的には、郵政事業に関する図書、ポスター、錦絵や、それらの写真の受入、整理、保存をしています。さらに、それらの資料をもとに出版・報道機関からの照会への回答、写真の貸出、また、館内で一部の図書資料を閉架式で閲覧できるサービスも行っています。学芸員というと、内向的な調査研究が主な仕事と思われがちですが、このような資料や情報の館外への提供も重要な仕事の一つなのです。また、郵政事務室の学芸員は交替で、常設展示場内にある企画展コーナー（面積約40m²）と特別展示場（面積1.316m²）の展示企画、図工教室、年賀状版画教室などの教育普及活動企画も担当します。



図工教室

しかし、実際は、前年度中に決まる、展示と教育普及活動の年間スケジュールに追われて一年が過ぎ、その担当の合間にやっと他の仕事ができるという状態です。

そのような中でも、学芸員は館の趣旨を理解し、自分なりのテーマを持って仕事をすることが必要だと思います。昨今、郵便という通信手段は、様々な新しい手段の

登場によって影が薄くなっていますが、私は、誰が送っても同じような画面と文字で相手に届くメールと違い、文字や送るものに送り手の個性が出る郵便の温かさや新たな可能性を広めたいという思いを込めて企画を行っています。

ところで、博物館で働くうち、私は、博物館が学芸員以外にもたくさんの人に支えられて運営されていることに気づきました。事務職員、受付・案内係、イベント会社、文化財修復業者、展示壁面やパネルを造る造型会社など。私も2年前に学芸員でなくとも博物館で働きたいと思い、受付・案内係に応募したところ、選考中に偶然、空きができた学芸員に採用となりました。学芸員の公募は少ないと思いますが、博物館に関わる仕事をしたいと思う気持ちがあれば、他の仕事からの回り道もあると思います。学芸員を目指して勉強中のみなさん、柔軟な視点を持ってがんばってください。



博物館実習生と

博物館実習を終えて

実習館：川崎市立日本民家園 商学部商業学科4年 清井 久美子

私は川崎市立日本民家園で10日間の実習をさせていただきました。実習をする前の私の学芸員のイメージは、絵画が多くある美術館と強く結び付いていて、屋外博物館である日本民家園の学芸員の事がどういったものなのか、よく分からずにいました。

しかし、主に講義形式と体験形式で構成された短い期間での実習で、日本民家園の学芸員実習生として多くを知ることが出来、学ぶことが出来ました。

その内容について少しお話ししたいと思います。まず講義の内容は、日本民家園についての話をはじめ、石造物の見方や板碑など、数多くの事を教えて頂きました。それらの話を聴いていくうちにとても多くの興味が湧き、もっと知りたいという思いになりました。

講義全体を通して私が一番に感じたことは、学芸員の持つ知識の深さです。もちろんそれが仕事であると言えばそれまでですが、博物館に来たお客さんの期待にいつも答えている学芸員はとても素晴らしいと思いました。またそれと同時に、自分の無知さを痛感する時間でもありました。

次は主に体を動かした実習についてですが、今回の実習の約8割が、そういった肉体労働的なものでした。それは2日目の障子の貼り替えからはじまりました。

実習生全7人が、1つの家の障子の貼り替えに丸1日かかったのです。単純に考えてみると、7人で日本民家園の障子を全部張り替えるのに、最低でも20日はかかるということです。日本民家園には正規の学芸員が1人しかいないので、障子1つとって考えてみてもこんな苦しい状況なのに、古民家全部に気を配るのは、肉体的にもどん



箱の取り扱い方の実習

なにか大変だろうと考えさせられました。

また、古民家では、囲炉裏を用いることは、害虫駆除の意味もある為必要なことなのですが、日本民家園は人手不足でそこまで手が回らないのでボランティアの方々にして頂いており、私達も手伝うことになりました。

それはただ単に囲炉裏に火を入れるだけでなく、家のつくりやその家の持つ意味などを広く一般の人に伝えるというものでした。私はその家の説明を覚えて、来て下さったお客さんに対し話をするのですが、講義の時に私が感じたような興味を持たせるような話し方はそんな簡単に出来るはずもなく、とても苦労しました。

特に最初の方は、自分のペースで話をしてしまっていたように思います。人に伝えることの難しさに直面した出来事でした。

また、実習生1人ずつ交代で展示室の監視を行ったのですが、人に注意する難しさと大切さを体験し、資料を守る監視の重要性を改

めて認識しました。他にも資料の点検や資料整理など、資料に関することもさせて頂きました。

特に資料整理では、まだ整理できていない資料の番号を控え写真を撮るなどの作業ができ、資料をデータに収める際のことを色々と学びました。また、資料の整理がどれ程多くの時間と労力を費やすものか少しですが体験でき、貴重な経験となりました。

今回の実習で、学芸員には研究などの学問的な側面と教育などのサービス業的な側面があることを学びました。そして教育などのサービス業的な側面が、いかに大きな研究などの学問的な側面によって支えられているか、少しでも感じとれたと思います。

そう考えると、いかに自分が勉強不足であったかを改めて反省し、これからどうあるべきかが分かったような気がします。また、学芸員の大変さと同時に素晴らしいさを感じられた実習でした。

博物館実習を終えて

実習館：東毛歴史資料館 商学部商業学科4年 石坂 康子

博物館に足を運ぶと、資料展示の仕方や演出表現、博物館自体の構造や環境などが様々な考慮のもとに成り立っているということがわかります。見る側がより衝撃的な強い印象を受けるように、いろいろな人の力が働いているのに気付く、また博物館そのものが、人間の優れた表現の集合体であると感じる時、私の心はいつも感動にうち震えるのです。今回の実習で、そのことを表面からでなく、内側から見ることができました。

私が実習した東毛歴史資料館は、群馬県内における文化の宝庫である東毛地区にあり、建造物や木像、絵画・文書などが数多く残っています。先人の活躍に色濃く染められた文化遺産は、私に郷土の歴史への愛着と、それを創り伝えた先人への敬慕の心をひきおこしました。

前半の実習で、小学生対象のはにわ教室に補助指導員という形で参加しました。このはにわ教室のような体験教室は、講座や講演会の一方向的に話を聞かせる点が改善されていました。学習者自身が参加・行動する過程で参加型展示活動の効果が発揮できるということがわかりました。普段子供と接する機会があまりないので、内心不安でしたが、子供独特の発想で、作業を進める様子を見ていたら、私の感性は年を重ねることによって、退化してしまったのではないかと思いました。その豊かな創造力には、ただ感動するばかりでした。このふれあいの中で、新たなものを発見したり、すでに知って

いたことを再確認することもでき、また改めて考え直させられたこともいくつかありました。めったにない貴重な体験ができました。

実習の後半では、博物館の内側や、学芸員の業務について学びました。

東毛歴史資料館は地域に密着した博物館であることが、その建設目的や役割、現在に至るまでの歴史等を知って、一層深く理解できました。地域博物館は、本領であ



絵巻をみている

る地域住民との、肌で接する生涯学習が非常に大切なものだということがわかりました。博物館学習を生涯学習に照らし合わせて考えてみると、年齢的な問題や、機会提供の難しさ、労働対価の問題など、避けて通れない課題があるのは事実です。しかし、古典的なスタイルを捨て、様々な企画を試みる姿勢から、将来の企画意向がとてもレベルの高いものであると思いました。

学芸員業務の学習では、展示の環境には、温度・湿度、照明や防虫・防錆など、様々な管理が必要だということがよくわかりました。展示と同時に保管も兼ねなくてはならないということの難しさを痛

感しました。資料を展示することは、博物館が機能する上で、とても重要なことであると再認識しました。そして、それをいかに興味をひきつけるように展示するかは学芸員のセンスにかかっているわけです。総合的な能力が要求されることを改めて実感しました。

この実習の中で最も私が苦労したのは、何と言っても企画展の立案でした。私がテーマに選んだのは仏教美術でした。けれども、展示する資料収集のやり方に問題があり、考え方や発想も至らないところが多く、まともな立案は残念ながらできませんでした。視野が狭かったために、問題提起の甘さや、他にも意義がうすれて十分に生かすきれないところが目立ってしまいました。今、思い返してみても、本当に大変な作業でした。もっと自分の企画にいろいろこだわりを持って、それを誇りに思えるような立案ができればと思いました。しかし、失敗したことで得たものがたくさんありました。

これらの経験から、自分自身の反省すべき点に気づき、博物館や学芸員についての知識がしっかりとしたものになりました。このプロセスにおいて、心を打つ出来事がいくつもありました。実習を成し遂げた達成感、自信につながりました。自分の理解がより深まり、これからの私の将来に生かすことができました。こうした貴重な機会に恵まれたことを、私はとても幸運に思います。

データ編

Index

1 平成11年度資格課程履修者数……………	40
2 平成11年度教員免許状取得状況一覧……………	41
3 平成11年度実習先一覧（教育実習）……………	42
4 平成11年度実習先一覧（図書館実習）……………	45
5 平成11年度実習先一覧（博物館館務実習）……………	45
6 主な就職先一覧（教職）……………	46
7 主な就職先一覧（司書・学芸員）……………	47
8 平成11年度資格課程年間行事表……………	48
9 平成11年度資格課程教員紹介……………	49

データ編

平成11年度 資格課程履修者数

	年次 学部・学科	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
教職	経済学部（経済）	50	11	39	10	20	13	26	10	135	44	179
	経済学部（国際経済）	11		7		9		5		32	0	32
	法学部	62	6	40	10	36	10	21	10	159	36	195
	経営学部（経営）	8		13		8		23		52	0	52
	経営学部（情報管理）	2		1				2		5	0	5
	商学部（商業）	31	9	48	12	43	10	35	10	157	41	198
	商学部（会計）	4		3		2		1		10	0	10
	文学部（国文）	39		48		52		65		204	0	204
	文学部（英米文）	28		33		29		31		121	0	121
	文学部（人文）	46		27		16		44		133	0	133
	文学部（心理）	1		2						3	0	3
	大学院	8		9						17	0	17
	科目等履修生		31							0	31	31
	小計	290	57	270	32	215	33	253	30	1028	152	
	合計	347		302		248		283		1180		1180

	年次 学部・学科	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司書	経済学部（経済）	1	2		1			3	1	4	4	8
	経済学部（国際経済）							1		1	0	1
	法学部	6	2	4		2	3	2	2	14	7	21
	経営学部（経営）	2		4		2		1		9	0	9
	経営学部（情報管理）	2								2	0	2
	商学部（商業）			6	1		1	1	1	7	3	10
	商学部（会計）									0	0	0
	文学部（国文）	19		14		18		12		63	0	63
	文学部（英米文）	6		1		5				12	0	12
	文学部（人文）	7		14		4		11		36	0	36
	文学部（心理）					1				1	0	1
	大学院	2								2	0	2
	科目等履修生									0	0	0
	小計	45	4	43	2	32	4	31	4	151	14	
	合計	49		45		36		35		165		165

	年次 学部・学科	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司書教諭	経済学部（経済）	1	2			1				2	2	4
	経済学部（国際経済）	1						1		2	0	2
	法学部	2		4		2		2	1	10	1	11
	経営学部（経営）									0	0	0
	経営学部（情報管理）	1								1	0	1
	商学部（商業）	2	1	1	1			2		3	4	7
	商学部（会計）									0	0	0
	文学部（国文）	7		6		13		15		41	0	41
	文学部（英米文）	1						2		3	0	3
	文学部（人文）	3				2		5		10	0	10
	文学部（心理）									0	0	0
	大学院	4								4	0	4
	科目等履修生									0	0	0
	小計	22	3	11	1	18		25	3	76	7	
	合計	25		12		18		28		83		83

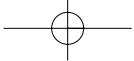
	年次 学部・学科	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
学芸員	経済学部（経済）	3		7		3	1	3	1	16	2	18
	経済学部（国際経済）	1		4		2				7	0	7
	法学部	4		4	3	5	1		1	13	5	18
	経営学部（経営）	1				2		3		6	0	6
	経営学部（情報管理）			1						1	0	1
	商学部（商業）	2	2	6	1	5		10		23	3	26
	商学部（会計）	1		1						2	0	2
	文学部（国文）	12		10		14		15		51	0	51
	文学部（英米文）	3		4		3		5		15	0	15
	文学部（人文）	25		39		17		34		115	0	115
	文学部（心理）	1						1		2	0	2
	大学院	1		1						2	0	2
	科目等履修生		8							0	8	8
	小計	54	10	77	4	51	2	71	2	253	18	
	合計	64		81		53		73		271		271

平成11年度 教員免許状取得状況一覧

		免許種類		中学一種				高校一種				中学専修				高校専修				合計				
				社会	国語	英語	小計	地理歴史	公民	商業	国語	普通	英語	小計	社会	国語	英語	小計	地理歴史		公民	商業	国語	英語
生田	一部	経済学科	申請者数	12			12	15	7				22											34
			授与件数	11			11	14	5					19										30
			申請者数	3			3	1	3					4										7
		国際経済学科	授与件数	3			3	1	3					4										7
			申請者数																					
			授与件数																					
		経営学科	申請者数																					
			授与件数																					
			申請者数																					
		情報管理学科	授与件数																					
			申請者数																					
			授与件数																					
		商業学科	申請者数	9			9	6	8	16				30										39
			授与件数	9			9	5	8	15				28										37
			申請者数																					
会計学科	授与件数																							
	申請者数																							
	授与件数																							
国文学科	申請者数		45																					
	授与件数		44																					
	申請者数																							
英米文学科	申請者数			31	31																			
	授与件数			26	26																			
	申請者数																							
人文学科	申請者数	23			23	29	15																	
	授与件数	20			20	28	13																	
	申請者数																							
心理学科	申請者数																							
	授与件数																							
	申請者数																							
経済学	申請者数																							
	授与件数																							
	申請者数																							
経営学	申請者数																							
	授与件数																							
	申請者数																							
商学	申請者数																							
	授与件数																							
	申請者数																							
文学	申請者数																							
	授与件数																							
	申請者数																							
小計	申請者数	47	45	31	123	51	33	30	54	5	27	189	4	5	0	9	4	0	1	5	0	10	321	
	授与件数	43	44	26	113	48	29	28	52	5	27	189	4	5	0	9	4	0	1	5	0	10	321	
	申請者数	11			11	11	14					25										36		
一部	法律学科	申請者数																						
	授与件数																							
	申請者数	11			11	11	14					25										36		
二部	経済学科	申請者数	5			10	9	10				19											29	
	授与件数	10			10	9	10					19										29		
	申請者数	5			5	3	4					7										12		
法律学科	申請者数	3			3	2	3	3				5										8		
	授与件数	3			3	2	3	3				5										8		
	申請者数	3			3		2					2										5		
商業学科	申請者数	2			2		2					2										4		
	授与件数	2			2		2					2										4		
	申請者数	1			1			5				5										6		
研究科	申請者数	1			1			4				4										0		
	授与件数	1			1			4				4										0		
	申請者数																							
科目等履修生	申請者数																							
	授与件数																							
	申請者数	9		1	10	9	6	4	1			1	21									31		
小計	申請者数	7		1	8	8	4	4	1			1	18									26		
	授与件数																							
	申請者数	29	0	1	30	23	26	9	1	0	1	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	
合計	申請者数	23	0	1	24	19	19	8	1	0	1	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72	
	授与件数	23	0	1	24	19	19	8	1	0	1	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72	
	申請者数	76	45	32	153	74	59	39	55	5	32	264	7	5	0	12	6	2	1	5	0	14	443	
合計	授与件数	66	44	27	137	67	48	36	53	5	28	237	4	5	0	9	4	0	1	5	0	10	393	
	申請者数																							
	授与件数																							

データ編

Passo a Passo



平成11年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	北海道	北海道旭川凌雲高等学校	地理歴史	経済	経済
	北海道	北海道北見北斗高等学校	公民	経済	経済
	北海道	北海道函館中部高等学校	公民	文	人文
	北海道	道愛女子高等学校	国語	文	国文
	北海道	北海道教育大学教育学部附属函館中学校	英語	文	英米文
	青森県	青森県立五所川原高等学校	地理歴史	経済	経済
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	国文
	岩手県	専修大学北上高等学校	商業	商	商業
	岩手県	岩泉町立岩泉中学校	社会	経済	国際経済
	岩手県	江刺市立江刺東中学校	英語	文	英米文
	岩手県	大東町立大原中学校	国語	文	国文
	岩手県	北上市立南中学校	英語	文	英米文
	岩手県	北上市立南中学校	国語	文	国文
	秋田県	秋田県立秋田中央高等学校	国語	文	国文
	山形県	山形県立酒田商業高等学校	商業	商	商業
	山形県	天童市立第三中学校	社会	文	人文
	福島県	福島県立安積高等学校	公民	文	人文
	福島県	福島県立郡山商業高等学校	商業	経営	経営
	福島県	松韻学園福島高等学校	商業	経営	経営
	福島県	福島県立福島東高等学校	国語	文	国文
関東	福島県	福島市立松陵中学校	社会	文	人文
	福島県	福島市立蓬萊中学校	英語	文	英米文
	茨城県	茨城県立小瀬高等学校	商業	商	会計
	茨城県	茨城県立下館第一高等学校	国語	文	国文
	茨城県	茨城県立土浦第三高等学校	商業	商	商業
	茨城県	茨城県立取手第一高等学校	商業	経営	経営
	茨城県	茨城県立那珂湊第一高等学校	商業	商	商業
	茨城県	茨城県立藤代高等学校	地理歴史	経済	経済
	茨城県	茨城県立水海道第一高等学校	国語	文	国文
	茨城県	牛久市立牛久第一中学校	国語	文	国文
	茨城県	江戸崎町立江戸崎中学校	英語	文	英米文
	茨城県	鹿嶋市立鹿島中学校	国語	文	国文
	茨城県	鹿嶋市立高松中学校	英語	文	英米文
	茨城県	千代田町立下稻吉中学校	社会	文	人文
	茨城県	取手市立取手第二中学校	国語	文	国文
	茨城県	水戸市立経岡中学校	社会	文	人文
	栃木県	宇都宮市立横川中学校	国語	文	国文
	栃木県	大田原市立若草中学校	社会	経済	経済
	栃木県	鹿沼市立南摩中学校	国語	文	国文
	栃木県	鹿沼市立南摩中学校	英語	文	英米文
関東	栃木県	田沼町立東中学校	社会	商	商業
	栃木県	栃木市立栃木東中学校	社会	経済	経済
	栃木県	栃木市立栃木南中学校	社会	商	商業
	群馬県	群馬県立伊勢崎東高等学校	国語	文	人文
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	商業
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	商業
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	商業
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	商業
	群馬県	群馬県立前橋東高等学校	英語	文	英米文
	群馬県	東京農業大学第二高等学校	国語	文	国文
	群馬県	伊勢崎市立稲連中学校	社会	経済	国際経済
	群馬県	大胡町立大胡中学校	英語	文	英米文
	群馬県	甘楽町立第一中学校	国語	文	国文
	群馬県	妙義町立妙義中学校	国語	文	国文
	群馬県	吉井町立中央中学校	社会	文	人文
	埼玉県	埼玉県立大宮高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	埼玉県立小川高等学校	地理歴史	商	商業
	埼玉県	埼玉県立越谷北高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	埼玉県立熊谷西高等学校	公民	商	商業
	埼玉県	埼玉県立熊谷西高等学校	公民	商	商業

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	埼玉県	埼玉県立松山高等学校	英語	文	英米文
	埼玉県	春日部共栄高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	栄東高等学校	地理歴史	商	商業
	埼玉県	淑徳与野高等学校	地理歴史	文	人文
	埼玉県	獨協埼玉高等学校	公民	文	人文
	埼玉県	本庄東高等学校	地理歴史	商	商業
	埼玉県	伊奈町立伊奈中学校	社会	文	人文
	埼玉県	大宮市立八幡中学校	国語	文	国文
	埼玉県	鳩ヶ谷市立八幡中学校	国語	文	国文
	千葉県	千葉県立君津高等学校	国語	文	国文
	千葉県	千葉県立京葉高等学校	国語	文	国文
	千葉県	千葉県立国分高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	千葉県立幕張総合高等学校	公民	商	商業
	千葉県	千葉県立幕張総合高等学校	公民	文	人文
	千葉県	千葉県立幕張総合高等学校	公民	文	人文
	千葉県	千葉県立薬園台高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	銚子市立銚子高等学校	公民	商	商業
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	経済	経済
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	経済	経済
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	国文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	国文
関東	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	国文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	千葉県立日本大学第一高等学校	地理歴史	商	商業
	千葉県	市川市立福栄中学校	国語	文	国文
	千葉県	千葉市立稲毛中学校	社会	文	人文
	千葉県	千葉市立松ヶ丘中学校	国語	文	国文
	千葉県	銚子立第六中学校	社会	経済	経済
	東京都	東京都立赤羽商業高等学校	商業	経営	経営
	東京都	東京都立大島高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立葛飾商業高等学校	商業	経営	経営
	東京都	東京都立小石川高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	東京都立小平高等学校	公民	経済	経済
	東京都	東京都立小平南高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立狛江高等学校	英語	文	英米文
	東京都	東京都立桜水商業高等学校	商業	経営	経営
関東	東京都	東京都立芝商業高等学校	商業	経営	経営
	東京都	東京都立城東高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立調布南高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	東京都立成瀬高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	東京都立成瀬高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	東京都立日野台高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立広尾高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	東京都立府中高等学校	公民	文	人文
	東京都	東京都立松が谷高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立武蔵丘高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英米文
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英米文
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	商	商業
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済

平成11年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	吉祥女子中学・高等学校	国語	文	国文
	東京都	実践学園高等学校	商業	商	商業
	東京都	実践学園高等学校	商業	商	商業
	東京都	順心女子学園高等学校	国語	文	国文
	東京都	潤徳女子高等学校	商業	商	商業
	東京都	潤徳女子高等学校	商業	商	商業
	東京都	松蔭中・高等学校	社会	経済	国際経済
	東京都	駿台学園高等学校	英語	文	英米文
	東京都	駿台学園高等学校	国語	文	国文
	東京都	星美学園高等学校	英語	文	英米文
	東京都	町田学園女子高等学校	商業	経営	経営
	東京都	明星学園高等学校	国語	文	国文
	東京都	目白学園高等学校	国語	文	国文
	東京都	頤栄女子学院中・高等学校	国語	文	国文
	東京都	国分寺市立第四中学校	社会	文	人文
	東京都	品川区立八潮中学校	英語	文	英米文
	東京都	台東区立今戸中学校	国語	文	国文
	東京都	立川市立立川第一中学校	英語	文	英米文
関東	東京都	町田市立南中学校	社会	商	商業
	東京都	立教女学院中学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立厚木商業高等学校	商業	経営	経営
	神奈川県	神奈川県立桂田高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立大磯高等学校	地理歴史	経済	経済
	神奈川県	神奈川県立大清水高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	神奈川県立希望ヶ丘高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立港南台高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立相模原高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立七里ヶ浜高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立住吉高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	公民	商	商業
	神奈川県	神奈川県立茅野高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	神奈川県立弥栄高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立横須賀高等学校	社会	経営	経営
	神奈川県	川崎市立商業高等学校	商業	経営	経営
	神奈川県	横浜市立桜丘高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	横浜市立東高等学校	国語	文	国文
関東	神奈川県	逗子開成高等学校	地理歴史	経済	経済
	神奈川県	富士見丘高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	川崎市立南生田中学校	英語	文	英米文
	神奈川県	相模原市立大野台中学校	社会	文	人文
	神奈川県	座間市立東中学校	国語	文	国文
	神奈川県	秦野市立東中学校	社会	文	人文
	神奈川県	藤沢市立六会中学校	社会	文	人文
	神奈川県	山北町立山北中学校	社会	文	人文
	神奈川県	大和市立光丘中学校	国語	文	国文
	神奈川県	横浜市立港南中学校	英語	文	英米文
	神奈川県	横浜市立藤の木中学校	社会	文	人文
	神奈川県	横浜市立金沢中学校	社会	商	商業
	神奈川県	横浜英和女学院中学校	社会	文	人文
	新潟県	新潟県立新津高等学校	商業	経営	経営
	新潟県	新潟県立長岡商業高等学校	商業	経営	情報管理
	新潟県	新潟県立明訓高等学校	公民	経済	経済
	新潟県	新潟県立北越高等学校	商業	商	商業
	新潟県	新潟県立北越高等学校	商業	商	商業
	新潟県	新潟県立北越高等学校	商業	商	商業
	新潟県	新潟県立北越高等学校	商業	商	商業
	新潟県	新潟県立北越高等学校	商業	商	商業

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
甲信越	新潟県	北越高等学校	商業	商	商業
	新潟県	聖籠町立亀代中学校	英語	文	英米文
	新潟県	六日町立五十沢中学校	社会	経済	経済
	富山県	高岡第一高等学校	商業	商	商業
	石川県	石川県立金沢向陽高等学校	商業	経営	経営
	石川県	七尾市立朝日中学校	社会	文	人文
	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	商業
	山梨県	山梨県立塩山高等学校	商業	経営	経営
	山梨県	山梨県立塩山高等学校	英語	文	英米文
	山梨県	山梨県立甲府西高等学校	地理歴史	商	商業
	山梨県	山梨県立甲府南高等学校	国語	文	国文
	山梨県	山梨県立身延高等学校	国語	文	国文
	山梨県	山梨県立吉田高等学校	地理歴史	文	人文
	山梨県	石和町立石和中学校	国語	文	国文
	山梨県	山梨市立山梨北中学校	社会	経済	経済
	長野県	長野県赤穂高等学校	商業	経営	経営
	長野県	長野県飯田高等学校	国語	文	国文
	長野県	長野県飯田高等学校	英語	文	英米文
	長野県	長野県上田高等学校	地理歴史	文	人文
	長野県	長野県諏訪二葉高等学校	国語	文	国文
	長野県	長野県諏訪二葉高等学校	地理歴史	経済	経済
東海	長野県	長野県長野高等学校	公民	文	人文
	長野県	長野県長野西高等学校	地理歴史	文	人文
	長野県	長野県野沢北高等学校	国語	文	国文
	長野県	塩尻市立塩尻西部中学校	国語	文	国文
	岐阜県	岐阜県立岐阜山高等学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡県立静岡商業高等学校	商業	商	商業
	静岡県	静岡県立下田北高等学校	地理歴史	文	人文
	静岡県	静岡県立沼津商業高等学校	商業	商	商業
	静岡県	静岡県立浜松北高等学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡県立浜松商業高等学校	商業	経営	経営
	静岡県	静岡県立三島北高等学校	英語	文	英米文
	静岡県	熱海市立多賀中学校	社会	文	人文
	静岡県	裾野市立東中学校	社会	経済	経済
	静岡県	裾野市立東中学校	社会	文	人文
	静岡県	沼津市立今沢中学校	社会	文	人文
	静岡県	浜松市立庄内中学校	社会	文	人文
	静岡県	富士宮市立大富士中学校	英語	文	英米文
	静岡県	三島市立中郷中学校	英語	文	英米文
	静岡県	焼津市立港中学校	国語	文	国文
	静岡県	焼津市立港中学校	社会	経済	経済
	愛知県	愛知県立新城東高等学校	公民	文	人文
近畿	兵庫県	兵庫県立鳴尾高等学校	国語	文	国文
	和歌山県	和歌山県立新宮商業高等学校	商業	経営	経営
	和歌山県	和歌山県立田辺商業高等学校	商業	経営	経営
	和歌山県	近畿大学附属和歌山高等学校	国語	文	国文
	鳥根県	鳥根県立松江北高等学校	英語	文	英米文
	岡山県	岡山県立津山商業高等学校	商業	商	商業
	広島県	広島県立広島皆実高等学校	英語	文	英米文
	徳島県	徳島県立美馬商業高等学校	商業	経営	情報管理

平成11年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	岩 手 県	岩手県立盛岡北高等学校	地理歴史	法	法律
	宮 城 県	宮城県仙台第三高等学校	地理歴史	法	法律
	山 形 県	山形県立新庄北高等学校	公 民	法	法律
	福 島 県	福島県立白河高等学校	地理歴史	法	法律
	福 島 県	桑折町立藤芳中学校	社 会	法	法律
関東	埼 玉 県	浦和市立高等学校	公 民	法	法律
	埼 玉 県	埼玉県立所沢北高等学校	地理歴史	法	法律
	埼 玉 県	草谷市立谷塚中学校	社 会	法	法律
	埼 玉 県	深谷市立深谷中学校	社 会	法	法律
	千 葉 県	佐倉市立白井西中学校	社 会	法	法律

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東 京 都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東 京 都	専修大学附属高等学校	公 民	法	法律
	東 京 都	専修大学附属高等学校	公 民	法	法律
	東 京 都	江戸川区立二之江中学校	社 会	法	法律
	神奈川県	神奈川大学附属中・高等学校	地理歴史	法	法律
近畿・四国・九州	和歌山県	和歌山県立新宮高等学校	公 民	法	法律
	香 川 県	香川県立高松南高等学校	公 民	法	法律
	高 知 県	土佐塾高等学校	公 民	法	法律
	沖 縄 県	沖縄県立那覇西高等学校	公 民	法	法律

平成11年度 図書館実習先一覧

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生	
			学 部	学 科
関東	埼 玉 県	橘川市立図書館	法	法律
	東 京 都	台東区立東図書館	文	国文
	東 京 都	台東区立東図書館	文	人文
	東 京 都	目黒区立目黒本町図書館	文	国文
	東 京 都	新宿区立大久保図書館	文	国文
	東 京 都	田無市立中央図書館	文	国文
	東 京 都	田無市立中央図書館	文	国文
	東 京 都	福生市立武蔵野台図書館	文	国文
	神奈川県	川崎市立多摩図書館	文	人文
	神奈川県	相模原市立相模大野図書館	文	人文
	神奈川県	相模原市立図書館	経済	経済

平成11年度 教育実習先一覧（2部）

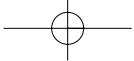
	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北・関東	福 島 県	福島県立安積女子高等学校	英 語	履修生	
	茨 城 県	下妻市立下妻中学校	社 会	経済	経済
	群 馬 県	群馬県立桐生高等学校	公 民	履修生	
	埼 玉 県	埼玉県立向陽高等学校	地理歴史	法	法律
	埼 玉 県	久喜市立久喜南中学校	社 会	商	商業
	千 葉 県	千葉県立磯辺高等学校	公 民	履修生	
	千 葉 県	千葉明德高等学校	公 民	法	法律
	東 京 都	東京都立秋川高等学校	公 民	法	法律
	東 京 都	東京都立葛飾商業高等学校	商 業	商	商業
	東 京 都	東京都立芝商業高等学校	商 業	商	商業
	東 京 都	東京都立第四商業高等学校	商 業	商	商業
	東 京 都	東京都立第五商業高等学校	商 業	履修生	
	東 京 都	東京都立忠生高等学校	公 民	法	法律
	東 京 都	東京都立練馬高等学校	公 民	経済	経済
	東 京 都	東京都立日比谷高等学校（定）	公 民	履修生	
	東 京 都	東京都立深川商業高等学校	商 業	商	商業

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北・関東	東 京 都	東京都立文教高等学校（定）	地理歴史	履修生	
	東 京 都	城西大学附属城西中高等学校	公 民	履修生	
	東 京 都	品川区立伊藤中学校	社 会	経済	経済
	東 京 都	中央区立日本橋中学校	社 会	履修生	
	東 京 都	練馬区立開進第二中学校	社 会	法	法律
	東 京 都	練馬区立貫井中学校	社 会	履修生	
	東 京 都	港区立御成門中学校	社 会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立長後高等学校	公 民	経済	経済
	神奈川県	川崎市立商業高等学校	地理歴史	法	法律
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	商 業	商	商業
甲信越	神奈川県	横浜商工高等学校	地理歴史	経済	経済
	山 梨 県	日本大学明誠高等学校	地理歴史	法	法律
	静 岡 県	静岡県立静岡商業高等学校	商 業	履修生	
	静 岡 県	浜松日体高等学校	地理歴史	経済	経済
	静 岡 県	豊田町立豊田南中学校	社 会	経済	経済

平成11年度 博物館実習先一覧

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生	
			学 部	学 科
東北	岩 手 県	北上市立博物館	文	人文
	岩 手 県	斎藤資記念館	文	人文
	宮 城 県	羽後町歴史民俗資料館	法	法律
	茨 城 県	下妻市ふるさと博物館	経済	経済
	群 馬 県	榑東村耳飾り館	経済	経済
関東	埼 玉 県	人間学博物館 A L I T	文	人文
	埼 玉 県	浦和市青少年宇宙科学館	法	法律
	埼 玉 県	行田市郷土博物館	経済	国際経済
	埼 玉 県	さいたま川の博物館	履修生	
	埼 玉 県	戸田市立郷土博物館	文	国文
	千 葉 県	館山市立博物館	経済	経済
	千 葉 県	千葉県立安房博物館	文	国文
	千 葉 県	千葉県立房総のむら	経済	経済
	千 葉 県	千葉市花の美術館	文	人文
	千 葉 県	流山市立博物館	文	国文
	千 葉 県	野田市郷土博物館	文	人文
東	千 葉 県	野田市郷土博物館	履修生	
	東 京 都	芸術教育研究所・おもちゃ美術館	文	人文
	東 京 都	財団法人家具の博物館	文	人文
	東 京 都	財団法人中村研一記念美術館	履修生	
	東 京 都	渋谷区立松濤美術館	文	国文
	東 京 都	立川市歴史民俗資料館	商	商業
	東 京 都	調布市武者小路実篤記念館	文	国文
	東 京 都	東京都井の頭自然文化園	履修生	
	東 京 都	東京都恩賜上野動物園	法	法律
	東 京 都	東京都近代文学博物館	文	国文
	東 京 都	東京都薬用植物園	文	人文
	東 京 都	沼田絵本美術館	経済	経済
	東 京 都	八王子市郷土資料館	文	人文
	東 京 都	バルテノン多摩	文	人文

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生	
			学 部	学 科
関東	東 京 都	東村山ふるさと歴史館	文	国文
	東 京 都	フジタイミュージアム	文	人文
	東 京 都	福生市郷土資料室	文	英米文
	東 京 都	武蔵野音楽大学楽器博物館	文	人文
	東 京 都	明治大学考古学博物館	文	国文
	東 京 都	明治大学商品陳列館	商	商業
	東 京 都	弥生美術館	履修生	
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	英米文
	神奈川県	川崎市立日本民家園	商	商業
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	国文
	神奈川県	北鎌倉美術館	文	国文
東	神奈川県	相模原市立博物館	商	商業
	神奈川県	中村正義の美術館	経済	国際経済
	神奈川県	中村正義の美術館	文	国文
	神奈川県	馬事文化財団馬の博物館	文	人文
	神奈川県	平木浮世絵美術館	文	国文
甲信越	神奈川県	平木浮世絵美術館	文	人文
	神奈川県	藤沢市湘南台文化センターこども館	文	国文
	神奈川県	藤沢市湘南台文化センターこども館	文	人文
	新 潟 県	長岡市立科学博物館	履修生	
	新 潟 県	新潟県立自然科学園	文	国文
	福 井 県	福井県立博物館	履修生	
	長 野 県	茅野市八ヶ岳総合博物館	文	国文
	静 岡 県	静岡市立登呂博物館	文	人文
	静 岡 県	沼津市歴史民俗資料館	文	人文
	愛 知 県	岡崎市美術博物館	文	人文
東海	熊 本 県	熊本市立熊本博物館	商	商業
	熊 本 県	玉名市立歴史博物館ころもピア	文	人文
九州	大 分 県	大分市歴史資料館	法	法律



主な教員就職先一覧

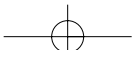
就職年度	卒業年度・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成10年度	平 5 経 済 ・ 経 済	新潟県新発田中央高等学校	専 任	公民・地歴
	平 8 法 ・ 法律	宮崎県宮崎市立櫛中学校	専 任	社 会
	平10 法 ・ 法律	千葉県専修大学松戸高等学校	非 常 勤	公 民
	平10 法 ・ 法律	長野県諏訪清陵高等学校	非 常 勤	公民・地歴
	平 9 経 営 ・ 経 営	熊本県熊本市立商業高等学校	専 任	商 業
	平 6 商 ・ 商業	高等学校（東京都）		商 業
	平 7 商 ・ 商業	東京都立赤羽商業高等学校	専 任	商 業
	平10 商 ・ 商業	青森県立弘前中央高等学校	非 常 勤	商 業
	平10 商 ・ 商業	東京都東亜学園高等学校校	専 任	商 業
	平10 商 ・ 商業	新潟県立八海高等学校	専 任	商 業
	平10 文 ・ 国文	福島県松韻学園福島高等学校	常 勤	国 語
	平10 文 ・ 国文	新潟県立糸魚川白嶺高等学校	専 任	国 語
	平10 文 ・ 国文	岩手県専修大学北上高等学校	専 任	国 語
	平10 文 ・ 英米文	東京都板橋区立成増小学校	期 限 付	そ の 他
	平10 文 ・ 英米文	福島県泉崎村立泉崎中学校	専 任	英 語
	平10 文 ・ 英米文	栃木県立小山城南高等学校	専 任	英 語
	平 6 文 ・ 人文	島根県立松江高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平10 文 ・ 人文	東京都東京共育学園高等学校	専 任	公 民
	平10 文 ・ 人文	高等学校（宮城県）		地 理 歴 史
	平10 院文 ・ 修士	東京都立教女学院中学校・高等学校	専 任	地 理 歴 史
平成11年度	平10 院法 ・ 修士	東京都文教大学附属高等学校	専 任	公 民
	平10 院文 ・ 博士	神奈川県光明学園相模原高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平11 経 済 ・ 経 済	北海道えりも町立えりも高等学校	常 勤	公 民
	平 8 法 ・ 法律	東京都専修大学附属高等学校	専 任	公 民
	平 9 法 ・ 法律	神奈川県横浜市立深谷中学校	非 常 勤	社 会
	法 ・ 法律	千葉県浦安市立浦安中学校	非 常 勤	社 会
	平11 経 営 ・ 経 営	福島県立須賀川高等学校	常 勤	商 業
	平11 経 営 ・ 経 営	東京都立大島高等学校	専 任	商 業
	平11 商 ・ 商業	東京都立赤羽商業高等学校	専 任	商 業
	平 6 商 ・ 商業	東京都立台東商業高等学校	専 任	商 業
	平 7 商 ・ 商業	東京都立池袋商業高等学校	専 任	商 業
	平 9 商 ・ 商業	北海道歌志内高等学校	専 任	公 民
	平11 商 ・ 会計	長野県松商学園高等学校	常 勤	商 業
	平 8 文 ・ 国文	宮城県石越町立石越中学校	専 任	国 語
	平11 文 ・ 国文	大分県昭和女子高等学校	非 常 勤	国 語
	平11 文 ・ 国文	北海道紋別市立潮見中学校	常 勤	国 語
	平 7 文 ・ 英米文	栃木県宇都宮市立鬼怒中学校	専 任	英 語
	平 9 文 ・ 英米文	青森県立八戸東高等学校	専 任	英 語
	平10 文 ・ 英米文	神奈川県小田原市立白鷗中学校	専 任	英 語
	平11 文 ・ 英米文	岩手県立千厩東高等学校	常 勤	英 語
	平11 文 ・ 英米文	千葉県柏市立酒井根中学校	非 常 勤	英 語
	平11 文 ・ 英米文	東京都正則学園高等学校	非 常 勤	英 語
	平11 文 ・ 英米文	山梨県立ふじぐら養護学校	非 常 勤	英 語
	平11 文 ・ 英米文	栃木県今市市立落合中学校	専 任	英 語
	文 ・ 人文	新潟県立南城高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平 8 院文 ・ 修士	東京学芸大学附属大泉高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平 9 院文 ・ 修士	栃木県立壬生高等学校	専 任	英 語
	平11 院文 ・ 修士	東京都保善高等学校	非 常 勤	英 語
	平11 院文 ・ 修士	東京都文教大学附属中学校・高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平11 院文 ・ 修士	熊本県専修大学玉名高等学校	常 勤	国 語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

卒業年度・学部・学科	勤務先
平 8 文 ・ 人文	東京大学法学部図書館
平 8 文 ・ 国文	杉並区立中央図書館（東京都）
平 8 法 ・ 法律	瀬高町立図書館準備室（福岡県）
昭和46 文 ・ 人文	東京福祉商経専門学校図書室
平 8 文 ・ 国文	桂村立図書館（茨城県）
昭和57 文 ・ 人文	市川市東国分中学校
平 9 文 ・ 人文	見附市立図書館（新潟県）
平 9 文 ・ 人文	女子栄養大学図書館
平 6 文 ・ 国文	下妻市立図書館準備室（茨城県）
平 9 文 ・ 国文	八街市立図書館（千葉県）
平 9 法 ・ 法律	日外アソシエーツ（株）
平10 文 ・ 国文	鷺湖書房
平10 文 ・ 国文	長岡市立中央図書館（新潟県）
平 9 文 ・ 人文	東京医科大学図書館
平11 商 ・ 商業	有隣堂

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県一迫町役場	野田市郷土博物館
秋田県埋蔵文化財センター	山武郡埋蔵文化財センター
下妻市ふるさと博物館	国立西洋美術館
玉造町資料館	調布市郷土博物館
栃木県埋蔵文化財センター	東京国際美術館
栃木県立博物館	東京都埋蔵文化財センター
群馬県埋蔵文化財センター	明治大学考古学博物館
富岡市立美術博物館福沢一郎記念美術館	福井県立博物館
入間市郷土博物館	高山市歴史民俗資料館
浦和市立郷土博物館	MOA美術館
行田市郷土博物館	鳥羽水族館
埼玉県埋蔵文化財センター	高松市歴史資料館
通信総合博物館	



平成11年度 資格課程年間行事表

課 程	教 職 課 程			司書・司書教諭課程		学 芸 員 課 程	
	月	行 事	対象 年次	行 事	対象 年次	行 事	対象 年次
4 月	上 旬 中 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年） 履修届および履修修正（全学年）					
		介護等体験事前指導	2・3				
5 月	上 旬	教育実習事前ガイダンス	3	司書課程学生相談会 司書教諭修了証書申請ガイダンス	4 4	博物館実習事前ガイダンス	3・4
	中 旬	教育実習第一登録ガイダンス	4				
6 月	上 旬	実習希望校との内諾交渉	3			博物館見学実習	3・4
	中 旬	教育実習開始 （5月下旬～9月中旬）	4				
	下 旬	教育免許状一括申請ガイダンス	4				
7 月	下 旬	補講および前期試験（全学年） 夏期休暇（7月下旬～9月中旬）					
8 月				図書館実習	4	博物館実習（館務実習）	3・4
		夏 期 休 暇					
9 月	中 旬	教育実習内諾書の提出 教員免許状授与願ガイダンス	3 4	司書製本講習	3・4		
10 月	中 旬	教職公開講座	1～4			博物館実習登録ガイダンス	2・3
11 月	上 旬	教育学会	1～4	司書教諭修了証書申請ガイダンス	4	実習希望博物館との内諾交渉	2・3
	下 旬						
12 月	中 旬	補 講（全 学 年）				学芸員資格取得証明書申請手続き	4
1 月	上 旬 下 旬	繰り上げ試験・学年末試験（全学年）				博物館実習承諾書の提出	2・3
2 月	下 旬	追 試 験（全学年）					
3 月	上 旬	教員免許状の交付	4			学芸員資格取得証明書の交付	4
	中 旬						

平成11年度 資格課程教員紹介
《司書・司書教諭》

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	梶山喜代子	教育心理学
経済学部	助 教 授	矢吹 芳洋	公民科教育法
法 学 部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法 学 部	教 授	渡部 光	教育人類学
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
商 学 部	教 授	陸山 雅博	地理歴史科教育法
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育法
商 学 部	講 師	小峰 直史	特別活動論
文 学 部	教 授	伊部 哲	英語科教育法
文 学 部	教 授	大島美津子	日本史
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	高橋 貢	国語科教育法
文 学 部	教 授	仲川 恭司	書道家教育法
文 学 部	教 授	林田 新二	倫理学
文 学 部	教 授	矢野 建一	日本史
文 学 部	助 教 授	近江 吉明	外国史
文 学 部	助 教 授	砂原 由和	教育方法論
文 学 部	助 教 授	柳瀬 訓	地誌学
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育法
経済学部	兼任講師	藤澤 健一	教育法学
経済学部	兼任講師	伏木 久始	社会科教育法
経済学部	兼任講師	大熊 光穂	心理学
法 学 部	兼任講師	岩間 秀幸	道德教育の研究
法 学 部	兼任講師	坂本 旬	教育方法論
法 学 部	兼任講師	関根 照彦	法律学
法 学 部	兼任講師	樋口 州男	日本史
経営学部	兼任講師	田口 康明	教育原論
商 学 部	兼任講師	雨田 英一	社会科教育法
商 学 部	兼任講師	井出 功孝	職業指導
商 学 部	兼任講師	毛利 豊史	倫理学
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	地理学
文 学 部	兼任講師	大熊 徹	国語科教育法
文 学 部	兼任講師	齋藤 純	社会科教育法
文 学 部	兼任講師	澤邊 和浩	外国史
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文 学 部	兼任講師	豊田 一男	教育実習Ⅰ（英語）
文 学 部	兼任講師	町田 洋	地理学
文 学 部	兼任講師	渡辺 千歳	教育心理学
文 学 部	兼任講師	西田 暢子	外国史

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	講 師	荻原 幸子	図書館概論
商 学 部	助 教 授	高萩栄一郎	コンピュータ概論
文 学 部	教 授	後藤 暢	図書館特論
経済学部	兼任講師	高橋 利行	生涯学習概論
経済学部	兼任講師	中島 宏	マスコミュニケーション
経済学部	兼任講師	橋本 淳一	社会学
法 学 部	兼任講師	齋藤憲一郎	資料組織概説Ⅱ
法 学 部	兼任講師	田中 功	情報検索
法 学 部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	猪平 進	コンピュータ実習
経営学部	兼任講師	竹内 紀吉	図書館サービス論
経営学部	兼任講師	稲垣 信子	学習指導と学校図書館
商 学 部	兼任講師	谷岡日出男	コンピュータ実習
文 学 部	兼任講師	小黑 浩司	図書館及び図書館史
文 学 部	兼任講師	小林 和夫	マスコミュニケーション
文 学 部	兼任講師	塚原 博	児童サービス論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	助 教 授	内田 欽三	博物館学
文 学 部	教 授	亀井 明德	博物館実習

編集後記

『パッソ ア パッソ』第2号がようやく出来上がりました。編集に際しては、このたびも多くの関係者の皆様に暖かいご支援ご協力を頂きました。ここに記して厚く御礼を申し上げます。

さて、本号は誌面の一層の充実を図るべく、新たに《論文》を掲載致しました。資格課程を構成している先生方の日々の研究と実践の成果を学内外にアピールすることも、本誌の使命であると考え、本号からこれを掲載した次第です。ここでは、嶺井正也先生にお願いして、障害児教育のあるべき姿をイタリアの先進的事例にもとづいて論じて頂きました。

本号に掲載されている実践報告や職場紹介、あるいは体験に関する記事を読むと、OB・OGの方々の職場での活躍ぶりや実習生の現場における奮闘ぶりが眼に浮かんできます。今まさに教員・司書・司書教諭・学芸員を目指している学生はもとより、我々教員にも、その熱い思いが伝わってきます。これを読んで読者はどんなに励まされ、勇気づけられることでしょう。

編集委員会はこれからも本誌の充実に努めていきたいと念じています。皆様から建設的な意見、感想などをお寄せ頂ければ幸いです。

最後になりましたが、多忙な勤務状況下にありながら編集作業に携って下さった教務課の皆さんに、衷心より御礼申し上げます。

資格課程年報編集委員会

商 学 部 教 授 蔭 山 雅 博
経営学部助教授 内 田 欽三
文 学 部 助 教 授 砂 原 由 和
経 営 学 部 講 師 荻 原 幸 子
教 務 課 桐 生 ま い 子

2000年11月8日

**平成11年度 専修大学
資格課程年報『パッソ ア パッソ』**

発行日 平成12年11月30日

編 集 専修大学
生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
TEL 044-911-1259 FAX 044-911-1241

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8
TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

U R L <http://www.senshu-u.ac.jp/school/shikaku>

印 刷 株式会社 芳文社

〒194-0035 東京都町田市忠生1-18-18
TEL 042-792-3100